宮城県

事務局　〒989-12　宮城県柴田郡大河原町大谷字西原前154-6　柴田農林高等学校内
佐藤　正二　TEL0224-53-1049

歴代会長

初　代 高橋　弘夫（昭和26年～）
第2代 大平　良治（昭和39年～）
第3代 工藤　哲夫（昭和41年～）
第4代 佐々木福徳（昭和42年～）
第5代 佐藤　信重（昭和45年～）
第6代 青柳　照夫（昭和60年～）
第7代 佐々木善哉（平成3年～）

〈沿 革〉

協会創立に至る経緯

本県におけるウエイトリフティング競技の萌芽は昭和24年である。第7回国体の開催誘致を進める一環として、ウエイトリフティング協会創立が必要となり、当時の宮城師範学校の体育教師であった佐藤信重（後に東北大学・宮城教育大学・仙台大学教授を歴任）が視察を兼ね、第4回国体（東京）に出場したのが始まりである。翌25年、まだ協会創立には至らなかったものの、第5回国民体育大会に3名の選手が出場した。

第5回国体の後、日本ウエイトリフティング協会の指導をうけ、昭和26年8月協会創立の運びとなった。同年9月には本県にとって初の大会を開催し、第6回国体に5名の選手を送り出し、宮城県ウエイトリフティング協会がスタートした。

協会の設立にあたっては、初代会長をお引き受けいただいた高橋弘夫（昭和39年没）の競技に対する深い御理解と財政面での多大な御支援があった。大会には必ず顔を見せ選手を直接激励され、普及発展に努められた。

本県のウエイトリフティング競技は、佐藤信重の手により東北大学の学生達を中心にして普及されていったのであるが、当時の選手の数は10名足らずであった。その学生達が大学を卒業し、高校に奉職して部を設立、指導を始めて高校生競技者数も増加した。昭和30年4月に宮城県高等学校体育連盟に加盟、正式に宮城県高体連ウエイトリフティング部会が誕生し、第1回宮城県高等学校総合体育大会ウエイトリフティング競技大会を開催した。

当時の国体競技は、高校生（少年）と成年の区別がなく、本県から昭和30年第10回国体（神奈川）に高校生が初めて出場し話題になった。

本県出身の代表選手には、村田町出身で現在自衛隊に勤務している三宅兄弟がいる。兄の義信選手は昭和39年第18回東京オリンピック大会に世界新記録で優勝したのを始め、その前後の世界選手権大会に4連覇し、数多くの世界記録を樹立している。弟の義行選手も昭和43年第19回メキシコ・オリンピック大会に兄義信選手と兄弟で出場し、兄が優勝、弟が3位と兄弟での活躍が話題になった。三宅兄弟以外にもオリンピック大会、世界選手権大会、アジア大会、ジュニア世界選手権大会等の国際大会に数多くの日本代表選手を送り出している。また、国体総合優勝を始め、全国高等学校ウエイトリフティング競技選手権大会学校対抗において柴田農林高等学校が2回、宮城県農業高等学校が1回の優勝と数多くの入賞者を輩出するなど、輝かしい足跡を残している。

〈年次別概況〉

昭和24年

第4回国体に佐藤信重（東北大教）が本県選手として初出場しL級で8位に入賞した。

昭和25年

第5回国体でF級阿部末男6位、M級佐藤信重（東北大教）6位と入賞した。

昭和26年

協会が創立され、初代会長に高橋弘夫が就任した。

第6回国体でM級佐藤信重（東北大教）が5位に入賞した。

昭和27年

第7回国体でF級坂口政史（東北大）7位、B級青柳照夫（東北大）6位、M級佐藤信重（東北大教）4位と入賞した。

昭和28年

第8回国体でF級坂口政史（東北大）7位、Fe級佐々木善哉（東北大）6位、L級早坂春夫（東北大）3位、M級佐藤信重（東北大教）2位と入賞し、総合4位となった。

昭和29年

第9回国体でL級早坂春夫（東北大）3位、LH級渡辺昌幸（東北学院大）2位と入賞し、総合7位となった。

昭和30年

第10回国体でM級早坂春夫（上杉山中教）4位、LH級川名英一（日本生命）2位と入賞し総合7位となった。

宮城県高等学校体育連盟に加盟が認められ部会が発足し、8校44名の選手が参加し、12月に高校選手権大会として部会主催の初大会を開催した。

昭和31年

第1回東北選手権大会を仙台市で開催した。

第11回国体でM級早坂春夫（岩切小教）が2位に入賞した。

第3回全国高校選手権大会に初出場し、Fe級桂川孝三（柴田農）6位、L級加藤高明（柴田農）4位、M級豊栄滉（仙台商）8位と3名が入賞し学校対抗で柴田農林高校が8位と、初出場とは思えぬ素晴らしい成績を残した。

昭和32年

第12回国体でF級三宅義信（大河原商）5位、B級桂川孝三（柴田農OB）4位、M級早坂春夫（岩切小教）4位と入賞し総合6位となった。

第4回全国高校選手権大会でF級三宅義信（大河原商）5位、B級佐々木正信（仙台商）6位、M級長谷部正三（柴田農）5位と入賞した。

昭和33年

第13回国体でF級三宅義信（法政大）優勝、Fe級桂川孝三（法政大）5位と入賞し総合6位となった。

第5回全国高校選手権大会でLH級藤原卓（石巻高）が2位に入賞した。

昭和34年

第14回国体でB級三宅義信（法政大）が2位に入賞した。

第6回全国高校総体でF級菊地洋昭（柴田農）5位、Fe級高橋忠義（東北高）5位、L級葉坂仁司（柴田農）4位と入賞した。

昭和35年

第５回東北北海道選手権大会を仙台市で開催した。
第17回ローマ・オリンピック大会で三宅義信(法政大)がＢ級で２位入賞を飾った。
会長高橋弘夫が宮城県体育協会より功労賞を受賞した。
第15回国体でFe級桂川孝三(法政大)が優勝した。
第７回全国高校総体でFe級大沼清一(柴田農)６位、Ｌ級葉坂仁司(柴田農)優勝、Ｍ級小原忠信(柴田農)３位、ＬＨ級木村茂郎(石巻高)５位と入賞し学校対抗で柴田農林高校が５位となった。

昭和36年

第８回全国高校総合体育大会を仙台市レジャーセンターを会場として開催した。
第８回全国高校総体でＦ級森健治(柴田農)３位、Ｂ級小松恒俊(柴田農)６位、Ｌ級大沼清一(柴田農)４位と入賞し学校対抗で柴田農林高校が２位と好成績をおさめた。
第16回国体から少年(高校生)と成年(一般)に分かれて出場できるようになり、少年Ｆ級森健治(柴田農)優勝、同Ｂ級小松恒俊(柴田農)５位、同Fe級三浦正達(仙台商)６位、同Ｌ級大沼清一(柴田農)４位、成年Fe級三宅義信(法政大)優勝、同Ｌ級桂川孝三(法政大)２位、同Ｍ級高橋忠義(法政大)６位と入賞し総合５位となった。

昭和37年

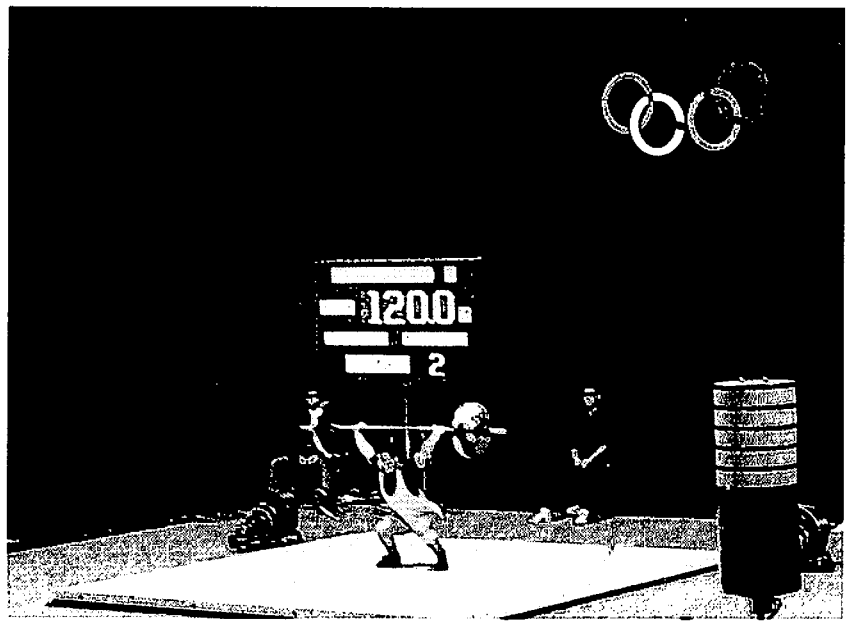
第17回国体で成年Fe級三宅義信(自衛隊)優勝、同Ｌ級桂川孝三(仙都国際観光)優勝、同Ｍ級葉坂仁司(早稲田大学)６位と入賞し総合６位となった。
第９回全国高校総体でＦ級三宅義行(大河原商)５位、Ｂ級三浦正達(仙台商)５位、Fe級佐藤和雄(大河原商)４位、ＬＨ級村田俊照(石巻高)７位と入賞した。

昭和38年

第８回東北北海道選手権大会を仙台市で開催した。
第18回国体で成年Fe級三宅義信(自衛隊)が優勝し同Ｍ級葉坂仁司(早稲田大学)が６位に入賞した。
第10回全国高校総体でＦ級大平勝夫(柴田農)６位、Ｆ級高橋一郎(東北高)７位、Ｂ級三宅義行(大河原商)３位、Fe級高橋一夫(柴田農)４位、Ｍ級遠藤嘉博(柴田農)７位と入賞し学校対抗で柴田農林高校が８位となった。

昭和39年

第２代会長に大平良治が就任した。



昭和39年、東京オリンピックFe級優勝・三宅義信

第18回東京オリンピック大会で三宅義信(自衛隊)がFe級で優勝した。
第19回国体で成年Fe級三宅義信(法政大)優勝、同Ｈ級渡辺昌幸(日本通運)２位と入賞し総合８位となった。
第11回全国高校総体で柴田農林高校が学校対抗で初優勝した。個人においてもＦ級高橋一郎(東北高)２位、Ｂ級加藤勇治郎(柴田農)５位、Ｂ級木川田耕作(栗原農)６位、Fe級鈴木信昭(仙台商)４位、Ｌ級高橋一夫(柴田農)４位、Ｍ級高橋次夫(柴田農)３位と数多くの入賞者を出した。

昭和40年

三宅義信が河北文化賞を受賞した。
第12回全国高校総体でFe級鈴木信昭(仙台商)４位、Ｌ級高橋次夫(柴田農)２位、Ｍ級阿部勝広(東北高)４位、ＬＨ級小笠原一郎(柴田農)４位と入賞し学校対抗で柴田農林高校が４位となった。

昭和41年

第３代会長に工藤哲夫が就任した。
宮城県体育協会より貫洞英正が功労賞を受賞した。
第21回国体で成年Ｆ級で大平勝夫が優勝した。
第13回全国高校総体でＦ級佐藤章(栗原農)３位、ＬＨ級二階堂泰義(仙台商)５位と入賞した。

昭和42年

第４代会長に佐々木福徳が就任した。
第22回国体で成年Fe級三宅義行(法政大)が２位に入賞した。
第14回全国高校総体でＭ級加茂富夫(電子高)が４位に入賞した。

昭和43年

宮城県体育協会より佐藤信重が功労賞を受賞した。
第23回国体で成年Ｂ級高橋一郎(法政大)３位、同Ｍ級高橋次夫(日体大)６位、同ＬＨ級菊地隆(法政大)６位と入賞した。
第15回全国高校総体で柴田農林高校が４年ぶり２度目の優勝を飾り、個人でもＦ級大野庄蔵(柴田農)優勝、Ｂ級佐藤正二(柴田農)４位、Fe級加藤明(柴田農)５位、ＬＨ級福田立(育英)３位と入賞した。

昭和44年

第24回国体において総合初優勝を飾り、少年Ｆ級尖戸幸次(大河原商)２位、同Ｂ級佐藤正二(柴田農)優勝、同Fe級平間栄(柴田農)優勝、同Ｌ級二瓶昇(柴田農)６位、同Ｍ級平間繁夫(大河原商)２位、成年Ｌ級高橋次夫(日体大)７位、同ＬＨ級菊地隆(法政大)２位と数多くの入賞者を出した。
第16回全国高校総体でＢ級佐藤正二(柴田農)優勝、Ｂ級遠藤範昭(柴田農)７位、Fe級平間栄(柴田農)６位Ｍ級平間繁夫(大河原商業)２位と入賞し学校対抗で柴田農林高校が２位となった。

昭和45年

第５代会長に佐藤信重が就任した。
第25回国体で成年Ｍ級菊地隆(法政大)が２位に入賞した。
第17回全国高校総体でＢ級尖戸幸次(大河原商)３位、Ｂ級我妻庄三(柴田農)４位、Fe級佐藤吉太郎(柴田農)３位、ＬＨ級今村民雄(柴田農)６位、MH級佐々一男(大河原商)５位と入賞し学校対抗で柴田農林高校が３位となった。

昭和46年
第16回東北北海道選手権大会を仙台市で開催した。
第18回全国高校総体でB級村上一郎(柴田農)優勝、B級鈴木俊明(大河原商)5位、Fe級鈴木重信(柴田農)8位と入賞し学校対抗で柴田農林高校が4位となった。
昭和47年
第27回国体で成年M級菊地隆(STP)2位、同LH級平間繁夫(大商大)8位と入賞した。
第19回全国高校総体でF級伊藤晃(小牛田農)6位、B級村上耕悦(柴田農)3位と入賞し学校対抗で柴田農林高校が6位となった。
昭和48年
第28回国体で成年B級佐藤正二(日体大)6位、同M級平間繁夫(大商大)2位と入賞した。
第20回全国高校総体でM級鈴木和雄(大河原商)7位、LH級佐藤光正(柴田農)2位、MH級草川芳弘(大河原商)5位と入賞した。
昭和49年
第29回国体で少年F級後藤信一(栗原農)7位、同B級早坂利昭(東北高)3位、同Fe級佐藤義則(塩釜高)8位、同M級八木宏(塩釜高)7位、同LH級佐藤光正(柴田農)優勝、成年B級佐藤正二(角田高教)8位、同Fe級尖戸幸次(岩沼市役所)7位と入賞した。
第21回全国高校総体でB級早坂利昭(東北高)3位、Fe級佐藤義則(塩釜高)8位、LH級佐藤光正(柴田農)優勝、MH級草川芳弘(大河原商)3位と入賞した。
昭和50年
第30回国体で少年B級郷家達良(柴田農)が7位に入賞した。
第22回全国高校総体でFe級内海敏昭(塩釜高)が8位に入賞した。
昭和51年
第3回東北総合体育大会競技会を大河原町で開催した。
第31回国体で成年MH級佐藤光正(日体大)2位、少年Fe級郷家達良(柴田農)6位、同L級平間樹夫(田農)8位、同M級青野芳郎(柴田農)6位と入賞した。
第23回全国高校総体でFe級郷家達良(柴田農)5位、M級青野芳郎(柴田農)2位、LH級川嶋功(東北高)7位と入賞し学校対抗で柴田農林高校が3位となった。
昭和52年
第32回国体で少年82.5kg級安彦勝弘(柴田農)4位、成年90kg級で佐藤光正(日体大)が優勝した。
昭和53年
第33回国体で少年75kg級鈴木久雄(柴田農)2位、成年90kg級で佐藤光正(日体大)が優勝した。
第25回全国高校総体で56kg級片桐英雄(気仙沼水産)3位、67.5kg級志村浩幸(柴田農)6位、75kg級鈴木久雄(柴田農)3位と入賞し学校対抗で柴田農林高校が8位となった。
昭和54年
第34回国体で少年52kg級小笠原鉄夫(柴田農)6位、同75kg級安彦義司郎(柴田農)6位と入賞した。
第26回全国高校総体で75kg級安彦義司郎(柴田農)3位、90kg級吉野賢二(柴田農)7位と入賞した。
昭和55年
第35回国体で成年90kg級佐藤光正(県体協)が優勝、少年56kg級志村隆(柴田農)5位、同60kg級佐藤茂和(柴田農)8位、同90kg級吉野賢二(柴田農)3位と入賞した。
昭和56年
第36回国体で少年52kg級渡辺晃治(柴田農)が優勝した。
第28回全国高校総体で56kg級渡辺晃治(柴田農)が3位に入賞した。
昭和57年
第9回東北総合体育大会競技会を大河原町で開催した。
第37回国体で少年56kg級武田一幸(柴田農)7位、同60kg級佐藤隆(宮城農)5位、同90kg級伝住利雄(東北高)5位と入賞した。
第29回全国高校総体で60kg級佐藤隆(宮城農)が8位に入賞した。
昭和58年
第5回東北北海道社会人競技選手権大会を大河原町で開催した。
宮城県体育協会より佐々木善哉が功労賞を受賞した。
第38回国体で少年67.5kg級渡辺英一(柴田農)8位、成年56kg級渡辺晃治(東北リコー)8位と兄弟で入賞した。
昭和59年
第39回国体で成年60kg級渡辺晃治(東北リコー)が8位に入賞した。
第31回全国高校総体で52kg級吉田真(柴田農)が5位に入賞した。
昭和60年
第5回東北高等学校選手権大会を大河原町で開催した。
第6代会長に青柳照夫が就任した。
第40回国体で少年60kg級吉田真(柴田農)2位、成年60kg級渡辺晃治(東北リコー)8位と入賞した。
第32回全国高校総体で52kg級吉田真(柴田農)が4位に入賞した。
昭和61年
宮城県体育協会より青柳照夫が功労賞を受賞した。
第41回国体で少年60kg級佐藤和夫(宮城農)4位、同67.5kg級緑川昭雄(柴田農)8位と入賞した。
第33回全国高校総体で65kg級佐藤和夫(宮城農)が優勝し学校対抗で宮城県農業高校が5位となった。
第2回全国高校選抜大会で60kg級佐藤和夫(宮城農)が優勝した。
昭和62年
第42回国体で少年52kg級小野寺浩亀(気仙沼水産)8位、同56kg級遠藤幸雄(柴田農)8位、同60kg級で佐藤和夫(宮城農)が優勝した。
第34回全国高校総体で56kg級遠藤幸雄(柴田農)3位、60kg級佐藤和夫(宮城農)優勝、100kg級山田秀和(宮城農)8位と入賞した。
第3回全国高校選抜大会で52kg級小野寺浩亀(気仙沼水産)が2位に入賞した。
昭和63年
第43回国体で成年52kg級佐藤忠一(大慎組)が8位に入賞した。
第35回全国高校総体で52kg級小野寺浩亀(気仙沼水産)3位、56kg級佐藤勝(気仙沼水産)4位と入賞した。
第4回全国高校選抜大会で60kg級小野寺克文(気仙沼水産)7位、90kg級皆川孝憲(村田高)7位に入賞し+100kg級で佐藤吉輝(柴田農)が優勝した。
平成1年
第16回東北総合体育大会競技会を村田町を会場に開催した。
第44回国体で成年52kg級小野寺浩亀(日体大)6位、同60kg級佐藤和夫(日体大)6位、少年82.5kg級皆川孝憲(村田高)8位、同100kg級佐藤吉輝(柴田農)7位と入賞した。
第36回全国高校総体で100kg級佐藤吉輝が7位に入賞した。
平成2年
第37回全国高校総合体育大会を村田町町民体育館を会場に開催した。
第45回国体で成年60kg級佐藤和夫(日体大)4位、少年52kg級三浦貴公(宮城農)6位と入賞した。
第37回全国高校総体で56kg級岩佐正広(宮城農)が7位に入賞した。
第6回全国高校選抜大会で52kg級三浦貴公(宮城農)、56kg級岩佐正広(宮城農)が優勝し、60kg級板垣誠二(宮城農)

3位、＋110kg級赤坂克之(宮城農) 4位と入賞した。

平成3年

第11回東北高等学校選手権大会を名取市の宮城県農業高等学校を会場に開催した。

宮城県体育協会より宮崎吉之助が功労賞を受賞した。

第46回国体で成年52kg級小野寺浩亀(日体大) 3位、同67.5kg級佐藤和夫(日体大) 6位、少年52kg級三浦貴公(宮城農)優勝、同56kg級岩佐正広(宮城農) 2位、同82.5kg沼田忠義(宮城農) 6位と入賞し総合7位となった。

第38回全国高校総体で52kg級三浦貴公(宮城農)優勝、56kg級岩佐正広(宮城農)優勝、60kg級板垣誠二(宮城農) 3位、75kg級菊地雄一(宮城農) 8位、82.5kg級沼田忠義(宮城農) 6位、＋100kg級赤坂克之2位と宮城県農農業高校勢が大活躍をし、学校対抗においても大量得点をし、堂々の初優勝を飾った。

第7回全国高校選抜大会で52kg級鈴木和之(宮城農)が優勝し、100kg級大友孝幸(宮城農) 6位、110kg級村上健作(村田高) 2位と入賞した。

平成4年

第14回東北北海道社会人選手権大会を大河原町で開催した。

宮城県体育協会より坂口政史が功労賞を受賞した。

第25回バルセロナオリンピック大会に佐藤和夫(県体協)が60kg級で出場した。

第47回国体で成年52kg級小野寺浩亀(日体大) 2位、少年52kg級鈴木和之(宮城農)優勝、同82.5級吉上健作(村田高) 5位と入賞し総合6位となった。

第39回全国高校総体で52kg級鈴木和之(宮城農)優勝、82.5kg級吉川裕貴(宮城農) 4位、100kg級村上健作(村田高) 3位、＋100kg級大友孝幸(宮城農) 5位と入賞し学校対抗で宮城県農業高校が2位となった。

第8回全国高校選抜大会で59kg級大沼元継(柴田農) 7位、83kg級我妻義光(柴田農) 4位と入賞した。

平成5年

宮城県体育協会より山家是が功労賞を受賞した。

第48回国体で成年64kg級佐藤和夫(県体協)S優勝、少年59kg級前見文徳(石巻高) 6位、同91kg級高橋義宣(柴田農) 8位と入賞した。

第40回全国高校総体で91kg級高橋義宣(柴田農)が5位に入賞した。

第9回全国高校選抜大会で54kg級小島仁志(村田高) 7位、83kg級高橋義宣(柴田農) 5位、91kg級阿部忍(宮城農) 2位、99kg級大坪奨(宮城農) 5位と入賞した。

平成6年

第21回東北総合体育大会競技会を大河原町で開催した。

宮城県体育協会より早坂春夫が功労賞を受賞した。

第49回国体で成年54kg級鈴木和之(日体大) 4位、同60kg級岩佐正広(日体大) 7位、同64kg級佐藤和夫(石巻高教) 2位、少年54kg級小島仁志(村田高)優勝、同83kg級高橋義宣(柴田農) 4位、同91kg級阿部忍(宮城農) 3位と多数の入賞者を出し、総合5位となった。

第41回全国高校総体で54kg級小島仁志(村田高)優勝、83kg級高橋義宣(柴田農) 3位、91kg級阿部忍(宮城農) 5位、＋99kg級大坪奨(宮城農) 3位と入賞した。

平成7年

第50回国体で成年54kg級鈴木和之(日体大) 6位、同59kg級岩佐正広(日体大) 7位、同64kg級佐藤和夫(石巻高教) 4位、同83kg級高橋義宣(日体大) 6位、少年76kg級水戸健(柴田農) 5位と入賞した。

〈現役員〉

名誉会長	佐藤	信重	
参与	青柳	照夫	
顧問	千葉	浩三	
会長	佐々木善哉		
副会長	大沼	迪義	坂口 政史
	宮崎吉之助		山家 是
	早坂	春夫	
理事長	遠藤	嘉博	
副理事長	鈴木	利夫	相沢 清勝
事務局長	高橋	一夫	
常任理事	小畑陽一郎		我妻 啓志
	須田	賢一	鶴田 正幸
	太田	正二	佐藤 正二
	小島	明義	佐藤吉太郎
	塚目利喜雄		
理事	加藤勇治郎		目黒 敏明
	石井	出一	高橋 好夫
	若生	宣治	二階堂泰義
	加賀	剛	佐藤 光正
	山田	稔	成沢 厚
	吉野	賢二	板橋 正宏
	佐藤	忠一	渡辺 晃治
	佐藤	隆	遠藤 洋一
	渡辺	英一	二階堂守宏
監事	稲村	清一	我妻 潔

秋田県

事務局　〒010　秋田県秋田市茨島6-20-15
桜庭喜七郎　TEL0185-23-2321

歴代会長
初　代 栗山蔵之助（昭和31年～）
第2代 佐藤　育秀（昭和37年～）

〈沿 革〉

協会創立以前

6年後(昭和36年)に秋田国体をひかえた昭和30年2月に県教育委員会のお骨折りにより日本ウエイトリフティング協会副会長の井口幸男氏を招き、ウエイトリフティング競技が紹介された。

協会創立に至る経緯

昭和31年5月日本ウエイトリフティング協会審判部長の遠藤滝軌氏(秋田県出身)を講師に招き講習会を開催し、当時の受講者が中心となって協会の組織作りに努力し、初代会長に栗山蔵之助(県議会議員)を迎えて正式に県協会を設立(昭和31年5月29日)した。

〈年次別概況〉

昭和30年

講習会開催(秋田工業高校)。講師日本WL協会副会長井口幸男氏。

昭和31年

県WL協会設立。初代会長栗山蔵之助、理事長に(故)杉山僚一就任。審判・技術講習会開催、講師日本WL協会遠藤滝軌氏。第1回秋田県選手権大会を開催した。

昭和32年

支部協会として秋田市WL協会、能代市WL協会が設立した。東北ウエイトリフティング協会設立、本県の会長が東北協会長となる。全国高校選手権で初の入賞者を2名だした。

昭和33年

秋田・青森県対抗大会開催する。第5回全国高校大会を開催、全国初めての競技用演技台を完備(8米四方の鉄骨組立式のもの)し、3名の入賞者という成果を得ることができた。

昭和34年

第6回全国高校総体で短大附属高校が団体6位に入賞、個人で3位に1名が入賞した。第4回東北大会で総合優勝を飾った。

昭和35年

第20回全日本選手権大会兼ローマ・オリンピック出場選手最終予選会を開催した(昭和町・羽城中学校体育館にて)。第7回全国高校総体、短大附属高校が団体で準優勝した。第15回熊本国体で初の団体6位入賞をした。

昭和36年

第16回国民体育大会を本県で開催し、団体4位入賞をした。東京オリンピック候補選手として、紙屋博、一ノ関史郎、佐々木次男が選ばれる。第8回全国高校総体で短大附属高校が秋田県初の団体優勝をし、個人でF級一ノ関史郎が優勝した。

昭和37年

第9回全国高校総体で短大附属高校が2年連続団体優勝を果たし、個人M級藤原富秋、LH級桜庭喜七郎ともに優勝をした。栗山蔵之助会長が7月29日逝去、日本WL協会から功績賞並に特級審判章を贈られ、県体育協会からスポーツ功労賞が追贈された。第2代会長佐藤育秀(県議会議員)が就任する。第17回国体総合第3位、個人一般、一ノ関史郎ジュニア世界新記録で優勝、F級白川賢一2位(大会新)。高校、M級藤原富秋高校新、LH級桜庭喜七郎が優勝。白川賢一本協会初の海外遠征選手としてアジア大会に出場、アジア問題のため中止となる。1962年世界選手権大会代表として、コーチに小林努、選手一ノ関実がFe級に出場した。

昭和38年

モスクワ市長杯大会、B級一ノ関史郎が2位に入賞した。東京オリンピック選手強化コーチに小林努が就任した。第1回全日本社会人大会、F級白川賢一、B級紙屋博が優勝、全国高校総体で1名が優勝、1名が2位に入賞。東京国際スポーツ大会兼全日本選手権大会F級白川賢一日本新記録で優勝。第18回国体総合2位・個人F級白川賢一、B級一ノ関史郎が各優勝した。

昭和39年

東北・北海道選手権大会総合優勝、個人で5名が優勝した。第19回国体で高校が初の優勝、総合2位。個人で4名が優勝、1名が3位に入賞した。全国高校総体2名が優勝、1名が3位に入賞した。全日本選手権大会F級白川賢一、B級一ノ関史郎が優勝、一ノ関史郎が東京オリンピック代表に決定。東京オリンピック大会で一ノ関史郎が3位銅メダルを獲得、初の日の丸を東京渋谷公会堂にあげた。

昭和40年

第2回全日本社会人大会を本県大館市民体育館で開催し、今回より職場対抗戦が採り入れられ、本県・県庁チームが7位に入賞した。全日本選手権大会B級一ノ関史郎、M級藤原富秋が優勝した。全国高校総体で1位1名、2位1名が入賞。世界選手権大会イラン・テヘラン市で開催、日本ウエイトリフティング選手団の副団長として佐藤育秀、コーチに(故)小川準三、選手にB級一ノ関史郎、M級藤原富秋が派遣された。第20回国体で総合4位に入賞、個人で1名が優勝、1名が2位に入賞した。

昭和41年

全日本社会人大会B級白川賢一1位、F級一ノ関史郎2位に入賞。
全国高校総体で団体で大館南高校定時制チームが2位に入賞、個人で2名が3位に入賞した。東北・北海道選手権大会で初の完全優勝をした。個人で7人が優勝した。会長佐藤育秀が東北・北海道協会会長に就任した。
第21回国体で念願の天皇杯初優勝に輝いた。個人で3名が優勝、2位が3名、3位が5名の好成績を収めた。

昭和42年

第4回全日本社会人大会県庁チームが職場対抗戦で準優勝し、個人で3名が優勝した。全国高校総体で大館南高校定時制が総合優勝をした。個人では4名が2位入賞、1名が3位に入った。全日本選手権大会でB級一ノ関史郎、

F級斉藤久治郎が優勝した。東北・北海道選手権大会で総合優勝をし、個人で6名が優勝、第22回国体で総合優勝(2連覇)、個人で2名の優勝、2位5名、3位3名が入賞した。

昭和43年

第12回秋田県選手権大会をNHKの依頼により実況放映した。

全国高校総体で1名優勝、2名2位、1名3位に入賞した。全日本選手権大会で3名が優勝した。東北・北海道選手権大会で総合5連勝をした。個人で5名が優勝した。

メキシコ・オリンピックに会長佐藤育秀がJOC視察員として派遣された。一ノ関史郎がB級5位入賞した。

第23回国体で高校・一般とも優勝し、完全優勝(3連覇)。個人で3名優勝、2位3名、3位3名が入賞。

昭和44年

日本ウエイトリフティング協会の依頼で、第29回全日本選手権大会(兼)第1回日ソ親善大会を開催。日本選手団長に佐藤育秀会長があたり、監督に(故)小川準三が指揮をとる。B級小野弘が優勝、F級斉藤久治郎が2位、MH級後藤長三郎が3位に入賞した。全国高校総体で金足農業高校が3位入賞、個人M級斉藤喜美雄優勝、2位に2名が入賞した。

世界選手権大会にB級小野弘が出場、3位に入賞した。

第24回国体で総合3位に入賞し、個人で1名が優勝、2位3名が入賞した。

昭和45年

日韓親善大会でF級斉藤久治郎が優勝、B級小野弘が3位に入賞した。

全日本選手権大会で2名が優勝した。

全国高校総体でM級笹本隆悦が優勝、2位1名が入賞した。世界選手権大会出場の小野弘が5位に入賞した。

第25回国体で一般チームが優勝し、総合2位に入賞した。

昭和46年

全国高校総体で金足農業高校が総合3位に入賞し、個人でM級夏井文弘が優勝。東北・北海道選手権大会で高校・一般とも優勝し、完全優勝。個人で7名が優勝した。第26回国体で高校優勝・一般2位、天皇杯4度目の優勝をした。個人で2名が優勝、2名2位、4名3位に入賞した。

昭和47年

全日本選手権大会でB級小野弘が優勝、F級斉藤久治郎が2位に入賞し、両選手がミュンヘン・オリンピック日本代表に選ばれ、佐藤育秀会長がJOC視察員として派遣された。F級斉藤13位、B級小野7位となった。

全国高校総体で金足農業高校が団体優勝し、個人L級嵯峨光男、B級椎名彦晴が優勝、2位に1名が入賞した。

東北・北海道選手権大会で高校・一般とも優勝し完全優勝、個人で8名が優勝した。

第27回国体で高校優勝・一般2位、天皇杯優勝(2連覇、5度目の優勝)。

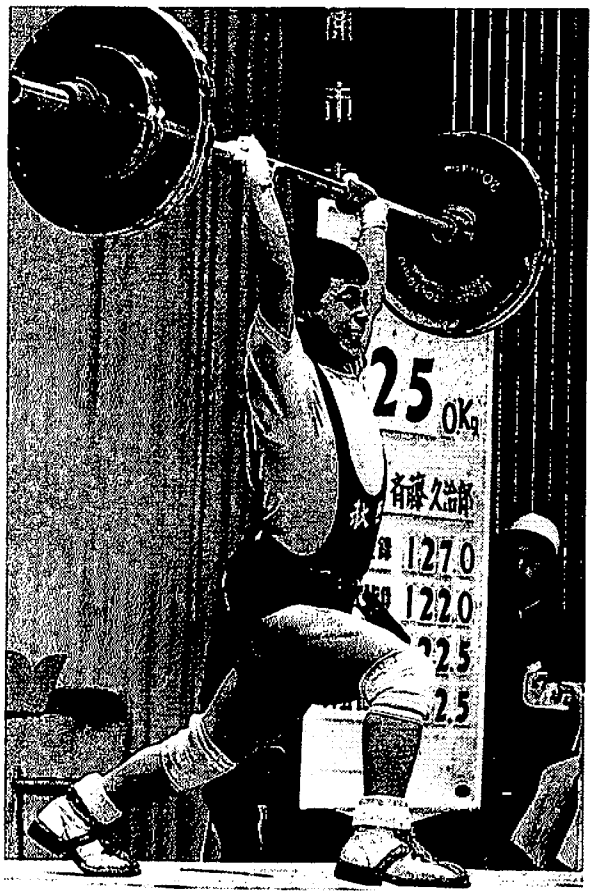
個人では4名が優勝、2位2名、3位1名が入賞した。

昭和48年

全国高校総体個人でLH級戸松実が優勝した。

東北選手権大会高校2位、一般優勝、総合で3連勝する。個人で4名が優勝。

第28回国体で総合優勝を東京・鹿児島と分けあった(3連覇、6度目の優勝)。個人で1名優勝、2位1名、3位2名が入賞した。



第24回国体、F級斉藤久治郎ジャーク125kgの日本新記録

昭和49年

全国高校総体で金足農業高校が団体2度目の優勝をした。個人ではM級小松敏雄が優勝、3位2名が入賞した。

東北体育協会が大会運営の変更をし組織的大会とする。第1回東北総合体育大会団体優勝、個人4名が優勝した。

全日本社会人大会実業団で角繁チームが準優勝、社会人チーム山利工クラブが準優勝した。

第29回国体で総合優勝(4連覇、7度目の優勝)。個人で1名優勝、2位3名、3位3名が入賞した。

昭和50年

全国高校総体でF級村岡喬、Fe級椎名千代実が優勝、1名3位に入賞した。

第2回東北総合体育大会で団体2連勝した。個人6名が優勝、2位4名、3位1名が入賞した。

第30回国体で総合5位に入賞、個人で2位3名が入賞した。

昭和51年

全国高校総体でF級近藤兼広3位入賞した。

第3回東北総合体育大会で団体3連勝した。個人6名が優勝、2位4名が入賞した。

第31回国体総合6位に入賞、個人で1名優勝、2位1名、3位1名が入賞した。

昭和52年

全国高校総体で75kg級畠山広栄が優勝した。

第4回東北総合体育大会個人で3名優勝、6名が2位、3名が3位に入賞した。

第32回国体で2位1名、3位2名が入賞した。

昭和53年

全国高校総体で5位～8位まで3名が入賞した。

第5回東北総合体育大会で個人3名優勝、5名が2位、2名が3位に入賞した。

第33回国体で1位1名、2位4名、と5名が8位内に入賞した。総合7位となる。

全日本社会人選手権大会で75kg級夏井武美が2位に入賞した。

昭和54年

全日本選手権大会で56kg級椎名彦晴が3位入賞した。

全国高校総体の団体総合で大館南高校が5位に入賞、個人で67.5kg級増子重が2位に入賞した。

第６回東北総合体育大会で７名が優勝、４名が２位、１名が３位に入賞。
第34回国体で２位２名、３位１名が入賞した。
全日本社会人選手権大会で56kg級椎名彦晴、110kg級下坂義昭がそれぞれ２位に入賞した。

昭和55年

全国高校総体の団体総合で秋経大付属高校が５位に入賞し、個人で52kg級古家守が優勝。60kg級長谷川栄治、75kg級後藤和義がそれぞれ３位に入賞した。
第７回東北総合体育大会で団体優勝し、個人で５名が優勝、６名２位、１名が３位に入賞した。
第35回国体団体総合で２位に入賞し、個人で１名が優勝、２名が２位、２名が３位に入賞したなど全員入賞した。

昭和56年

本年度より東北高等学校選手権大会が開催されることとなり第１回大会が行われ、３名が優勝、２名が２位、１名が３位に入賞した。
全国高校総体で個人67.5kg級畠山広栄が２位、75kg級斎藤翔が３位に入賞した。
第８回東北総合体育大会で個人５名が優勝、６名が２位、５名が３位に入賞。
第36回国体で団体６位に入賞、個人で２位に２名、３位に３名入賞した。

昭和57年

役員改選により、副会長に戸田忠・小林努が、理事長に加賀谷悦郎、副理事長に佐藤義樹が就任した。
第２回東北高校選手権大会で団体総合優勝に経法大附属高校が。個人で３名が優勝、１名が２位に、２名が３位に入賞した。
全国高校総体で個人、56kg級佐藤宙、75kg級三浦光治がそれぞれ３位に入賞した。
第９回東北総合体育大会で団体総合優勝をし、個人で５名が優勝、７名が２位、２名が３位に入賞。
第37回国体団体総合５位に入賞、１名が２位、２名が３位に、その他の選手も全員入賞。
11月23日に本協会会長が就任20年を迎え、20周年記念祝賀会を秋田市内ホテルにて開催した。

昭和58年

第３回東北高校選手権大会で個人２名が優勝、５名が２位、２名が３位に入賞した。
全国高校総体で三浦光治が優勝、佐々木司が２位に入賞した。
第10回東北総合体育大会で団体総合２連勝し、個人で６名が優勝、８名が２位、１名が３位に入賞した。
第38回国体で団体総合優勝（８度目）をし、個人で１名が優勝、３名が２位、２名が３位、１名が６位に入賞し、優勝祝賀会を秋田市内ホテルおいて開催した。

昭和59年

第４回東北高校選手権大会で個人３名が優勝、１名が２位、２名が３位に入賞した。
全国高校総体で52kg級安田忍、56kg級工藤昭二がそれぞれ２位に入賞。
第11回東北総合体育大会で団体総合３連勝し、個人で３名が優勝、６名が２位、３名が３位に入賞した。
第39回国体で団体総合２位に入賞し、個人で２名が優勝、１名が２位、１名が３位に入賞した。

昭和60年

第５回東北高校選手権大会で個人３名が優勝、１名が２位、１名が３位に入賞した。
全国高校総体で２名が３位に入賞した。
第12回東北総合体育大会で団体総合４連勝し、個人で６名が優勝、６名が２位、３名が３位に入賞した。
第40回国体で個人２名が３位に入賞した。
本協会創立30周年記念式典及び祝賀会の開催と30周年記念誌の発刊をした。

昭和61年

第６回東北高校選手権大会で個人１名が優勝、２名が２位、１名が３位に入賞した。
全国高校総体個人で、60kg級佐々木毅が２位に入賞した。
第13回東北総合体育大会で団体総合５連勝し、個人で２名が優勝、９名が２位、３名が３位に入賞した。
第41回国体で個人１名が３位入賞した。

昭和62年

第７回東北高校選手権大会団体で横手工業高校が第２位に、個人で１名が２位に入賞した。
第14回東北総合体育大会で団体総合６連勝し、個人で５名が優勝、６名が２位、５名が３位に入賞した。
第42回国体で個人１名が３位に入賞した。

昭和63年

第８回東北高校選手権大会で個人３名が優勝、１名が２位、２名が３位に入賞した。
全国高校総体で個人90kg級高橋明が総合２位に入賞した。
第15回東北総合体育大会で個人６名が優勝、４名が２位、１名が３位に入賞。団体総合は２位。
第43回国体総合得点58点で順位11位、個人では２位が１名、３位３名が入賞した。

平成元年

第９回東北高校選手権大会で個人３名が優勝、２名が２位、１名が３位に入賞した。
全国高校総体で個人67.5kg級渡部靖が２位に入賞した。
第16回東北総合体育大会で団体総合優勝し、個人で８名が優勝、４名が２位、２名が３位に入賞した。
第44回国体総合得点50点で順位13位、個人では２位が２名、３位が１名入賞した。

平成２年

第10回東北高校選手権大会で団体総合で秋田工業高校が優勝した。個人で５名が優勝、１名が２位、１名が３位に入賞した。
全国高校総体で100kg級大嶋学が優勝した。日韓ユース大会に日本代表として出場した。
第17回東北総合体育大会で団体総合２連勝し、個人で８名が優勝、３名が２位、３名が３位に入賞した。
第45回国体総合得点75点で順位５位に入賞し、個人で優勝２名、２位が１名、３位が２名、全員入賞した。
全日本社会人で２位１名、３位１名、実業団で１名が優勝。マスターズ110kg級下坂義昭がT305kgで優勝、この記録を世界マスターズ事務局へ申請したところ、この階級での世界新記録と認定される。

平成３年

第17回ジュニア世界選手権大会の日本代表として渡部靖が出場した。
第11回東北高校選手権大会で個人１名が優勝、２名が２位、１名が３位に入賞した。
全国高校総体で個人＋110kg級佐藤秀志が優勝した。
第18回東北総合体育大会で団体総合２位、個人で４名が優勝、５名が３位に入賞した。
第46回国体総合得点51点、順位13位となり、個人で２位１名、３位１名が入賞した。
全日本社会人で１名が優勝、実業団で２名が優勝した。

平成４年

ジュニア・アジア選手権大会の日本代表として塚本誠進が出場した。
第12回東北高校選手権大会で個人１名が優勝、２名が２位、４名が３位に入賞した。
全国高校総体で90kg級Ｓで田川智宏が３位に入賞した。
第19回東北総合体育大会で団体総合２位、個人で５名が優勝、３名が２位、３名が３位に入賞した。
第47回国体総合得点62点、順位６位に入賞し、個人で優勝１名、２位１名、３位１名で、全員入賞した。
本協会長就任30周年を迎え、30周年記念祝賀会を秋田市内ホテルで開催した。
全日本実業団で２名が２位に入賞し、マスターズで１名が優勝した。

平成５年

塚本誠進(法大)が日本代表としてブルガリア強化合宿に派遣される。
第13回東北高校選手権大会で個人２名が３位に入賞した。
第20回東北総合体育大会で団体総合２位、個人で３名が優勝、３名が２位、４名が３位に入賞した。
第48回国体総合得点58点、順位９位。個人で70kg級渡部靖がＳで日本新記録で優勝、１名が２位、全員入賞した。
全日本社会人で個人１名が３位、実業団１名が２位に入賞した。

平成６年

全国女子選手権(兼)アジア大会代表最終選考会で54kg級佐藤ひろみが優勝した。
第14回東北高校選手権大会で個人３名が２位、２名が２位に入賞した。
第21回東北総合体育大会で団体総合で優勝し、個人で６名が優勝、４名が２位、３名が３位に入賞した。
広島アジア大会女子54kg級で佐藤ひろみが７位となる。
第49回国体総合得点56点、順位９位で個人２名が３位入賞し、全員入賞をした。
全日本実業団で個人１名が優勝した。

平成７年

第15回東北高校選手権大会で個人２名が優勝、２名が３位に入賞した。
全国高校総体で＋108kg級鈴木忍が優勝、１名が３位に入賞した。
第22回東北総合体育大会で団体総合２位に入賞、個人で４名が優勝、３名が２位、２名が３位に入賞した。
第50回国体総合得点57点、順位10位で個人59kg級塚本誠進がＪ優勝、１名が２位になり、全員入賞を４年連続とした。
本協会創立40周年記念式典・祝賀会を秋田市内ホテルで開催した。「10年間のあゆみと栄光」(昭和60年～平成６年)を発刊した。

佐藤会長就任30周年記念祝賀会

〈現役員〉

会　長	佐藤　育秀	
副会長	戸田　忠	小林　努
理事長	加賀谷悦郎	
副理事長	桜庭喜七郎	佐藤　義樹
常任理事	小野　慶道	渕利　悦義
	熊谷真一郎	武石　龍一
	榎　昭二郎	白川　賢一
	夏井　武英	斉藤久治郎
	加賀屋俊悦	工藤　聡
	菅原　雅博	
理　事	小田嶋清高	大泉　源
	下坂　義昭	赤坂　稔
	斉藤　博史	一関　武彦
	佐々木清亮	椎名　彦晴
	佐藤喜八郎	政川　秀男
	柏木　稔憲	三沢　睦夫
	後藤長三郎	浪岡　勉
	小林　孝志	加賀谷富男
	後藤　長雄	吉川　勇
監　事	佐藤　清治	榎　斉
	一ノ関史郎	

山形県

事務局　〒997-03　山形県東田川郡羽黒町大字手向字薬師寺198　羽黒高等学校内
高橋　繁敏　0235-62-2105

歴代会長
初　代 華山　親義（昭和30年～）
第2代 吉村　和夫（昭和48年～）
第3代 鹿野　道彦（昭和55年～）

〈沿　革〉

協会創立以前

昭和26年10月、ウエイトリフティングの経験のある佐藤如男・田中多喜男が、福島県から山形大学に入り、部創立を発意して伊藤英雄・菊地俊次とともに準備にはいる。

当時は、正式なバーベルがなく、手頃な大石やコンクリートを固めたバーベル状のものを作成し、練習を開始した。

その頃は、福島県が毎年全国制覇する時勢であり、福島を除く東北各県には協会がなかった。

昭和29年、神町のアメリカ軍キャンプに、渡辺という二世の軍属が居り、ハワイ製のヘルスバーベルを所有しており、これを借用して鋳型を取り、初めてバーベルらしきものができあがったのである。

この10月、山形県においてバーベルを購入した事実を知り、旧陸上競技場倉庫の片隅から梱包も解かぬままのバーベルを発見した。山形県に正式のバーベルがお目見えし、本格的に練習を開始した。

協会創立に至る経緯

昭和29年、山形大学学友会体育学部に重量挙げ部の創立が認められる。11月、山形大学文理学部講堂において、県下初の公開重量挙げ競技会を開催する。

その後、山形大学農学部・工学部と相次ぎ部が誕生した。これが庄内農業高校、米沢工業高校の部創設の起因となる。

昭和30年山形大学重量挙げ部が中心となり、華山親義会長（副知事）・佐藤東二郎理事長（紅谷社長）・柴崎峰一郎事務局長（山大）で体制ができたこの年、日本ウエイトリフティング協会・山形県体育協会に加盟した。

〈年次別概況〉

昭和31年
第1回山形大学・慶応大学重量挙げ定期戦を開催（県体育館）する。その後、東京と山形で交互開催となる。
松浦選手、県初の100kg成功。

昭和31年
第11回国体（兵庫県）に山形県初参加。監督・佐藤如男、F級宮本俊夫の2名。

昭和32年
山形県重量挙げ協会発足記念・メルボルンオリンピック重量挙げ選手団招待、重量挙げ競技発表会を開催。（山形市役所講堂）
第8回山形県民体育大会に重量挙げ競技が初参加。全階級に18名の選手が参加し、初の国体予選となる。
第12回国体（静岡）において、早川F級第3位と、県勢初の入賞となる。

昭和33年
大山高等学校、松浦赴任により、高校の重量挙げが開始する。
第13回国体（富山）において、山形県協会初のフルエントリー出場。

昭和34年
第10回県民体育大会に、初の高校生が出場。
第14回国体（東京）に、山形大学に独占されていた選手に高橋（白鷗）が出場。

昭和35年
第11回県民体育大会に高校の部が創設され、大山高校7名・興譲館高校から1名の高校生が出場。

昭和36年
鶴岡市で第1回山形県ウエイトリフティング選手権大会を開催。

昭和37年
東北・北海道地区日本ウエイトリフティング協会公認審判講習会が開催され、本県より5名の公認3級審判が承認される。（庄農・羽黒・鶴西・米工）

昭和41年
第21回国体（大分）で、B級猪狩が県新記録で第3位入賞。
山形県高体連理事会において、専門部として承認され、高体連に加盟する。

昭和43年
日本ウエイトリフティング協会公認2級審判を武田が取得。
第13回東北・北海道ウエイトリフティング選手権大会を招致し、鶴岡市で開催。
全国高校総体（広島）に、山形県から川村（鶴西）初出場。

昭和44年
全国高校総体（群馬）で、山形県初入賞。齋藤隆がB級第3位。
県外コーチに三木功司氏（世界記録保持者）を招く。本格的・専門的トレーニングが開始される。

昭和45年
全国高校総体（和歌山）において、山形県初の団体入賞（庄農団体4位）。

昭和48年
全国高校総体（福島）において、B級齋藤県初の個人優勝。

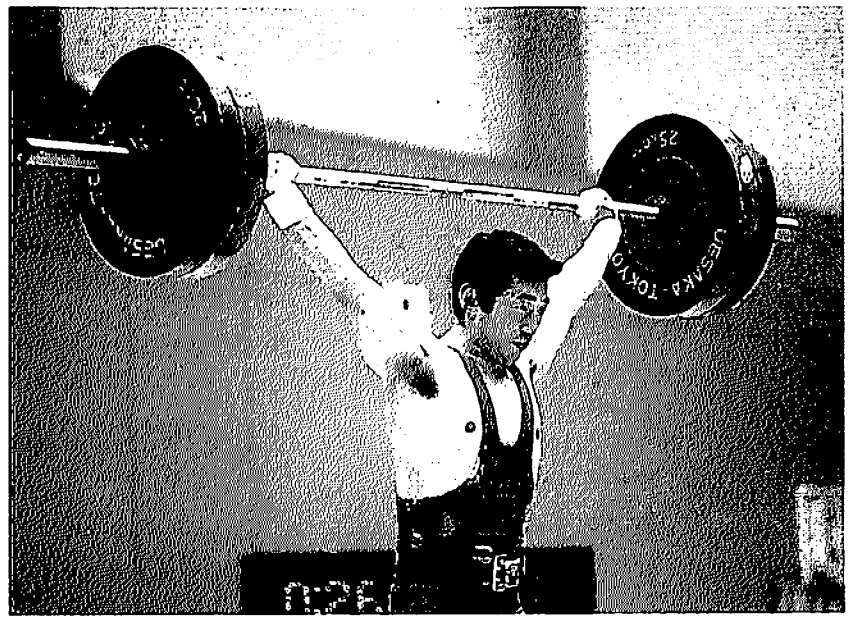
昭和49年
第9回日韓親善大会に齋藤出場。山形県初の海外遠征。

昭和50年
全日本選手権（千葉）Fe級齋藤優勝。山形県初の全日本優勝。
国体（三重）で、少年の部総合第3位入賞。少年の部、B級我孫子2位・L級佐藤3位・M級小野寺5位。

昭和51年
全国高校総体（長野）において、羽黒工業高校団体優勝。
モントリオール・オリンピックに本県よりFe級に齋藤隆出場（4位）。
国体（佐賀）少年の部第5位入賞。
日本ウエイトリフティング協会公認1級審判合格（松浦・田中・岡田）。

昭和53年
鶴岡市において、全国高校総体を開催、90kg級安藤はじめ6つの入賞。
国体（長野）少年の部で第3位入賞。56kg級難波4位、60kg級安野8位、67.5kg級佐々木優勝。

昭和54年
国体(宮崎)少年の部優勝。52kg級横沢2位、60kg級難波優勝、90kg級小野寺3位入賞。
日韓ユース大会で60kg級難波優勝。
昭和57年
第47回国体を羽黒町で開催することが決定。
昭和58年
国体(群馬)で成年の部優勝、総合第2位。
羽黒中学校男子の部でウエイトトレーニング教室を開催。
昭和59年
国体(奈良)で、成年の部第2位、総合第6位。
羽黒町において、ウエイトリフティングスポーツ少年団が認められる。
ロサンゼルス・オリンピックに、60kg級我孫子薫(第4位)、佐々木保重(第6位)選手出場。
昭和60年
国体(鳥取)で成年の部第5位、総合第7位。
昭和61年
国体(山梨)で成年の部第3位、総合第6位。
羽黒中学校にウエイトリフティング部誕生。
昭和62年
第1回全国中学生大会(埼玉)に羽黒中学より5名出場。
国体(沖縄)で成年の部第3位、総合第5位。
昭和63年
第1回全国中学生大会(埼玉)に羽黒中学より5名出場。44kg級山口、72kg級齋藤が優勝。
ソウル・オリンピックに67.5kg級佐々木が出場。
平成2年
東北総合体育大会を羽黒町で開催。
平成3年
第3回全国中学生大会を羽黒町で開催。
全日本社会人大会を羽黒町で開催。
平成4年
第47回国民体育大会を羽黒町で開催。
平成8年
第23回東北総合体育大会を羽黒町で開催。



ロサンゼルス・オリンピックで60kg級4位入賞した我孫子薫のS（昭58年）

第47回国体、山形県選手団（平成4年）

〈現役員〉

会　　長　鹿野　道彦
副 会 長　田中　隆三
理 事 長　岡田　三郎
理　　事　齋藤　　隆　佐藤　公司
　　原田　秀明　長谷部　徹
　　小南　保重　石黒　通弥
　　菅井　善信　富樫　嘉文

福島県

事務局　〒270　福島県いわき市平字梅本21　いわき市議会事務局内
鈴木　庄寿　TEL0246-22-7536

歴代会長
初　代 額賀　　誠（昭和23年～）
第2代 額賀　　任（昭和39年～）
第3代 藤田　勝夫（昭和59年～）
第4代 飯高　延由（昭和63年～）

〈沿 革〉

協会創立以前

重量挙競技が本県で始められたのは戦後の混乱した昭和23年である。当時、初代会長額賀誠(医師)が、早くから医学の立場より筋力養成について関心を持ち、さらには、戦後の荒廃した世相において如何にして純真な青少年を育成すべきかを考え、スポーツでも特に逞しい精神力と頑健な身体を築き上げる重量挙競技が最も適しているとの信念のもと、自ら息子(磨示・静思・厚義)たちにコンクリート・バーベルを持たせて練習させた時に始まる。

協会創立に至る経緯

昭和23年6月、額賀誠は戦前から重量挙に興味を持ち、戦地でも練習を続けていた弟の額賀任(第2代目会長・医師)の復員を待って、さらに戦前選手として活躍していた遠藤滝軌が帰郷したのと併せて、国体出場の話を進め、阿地逼海、佐川武夫、金子源三などの協力によって、昭和23年9月1日、福島県重量挙協会を設立し、息子たちを通じて地元高校生を中心にこの競技の普及に乗り出し、重量挙福島の基礎を作った。

〈年次別概況〉

昭和23年

福島県重量挙協会を創立、第1回福島県総合体育大会において、重量挙競技を公開演技として県スポーツ界に紹介した。

第3回国体に県代表選手として公式大会に初出場し、F級2位、B級4位、Fe級6位という成績を収めた。これに刺激され磐城高校をはじめ高校及び地域社会にもクラブが次々と誕生した。

さらに、競技普及に熱心な会長は、若い選手の技術の向上を図るため、東京から井口理事長や飯田氏等を度々コーチに招き、また、当時日本一の怪力といわれた若木竹丸を平市公会堂に招き、重量挙の妙味と真髄を実演することによって、選手たちを驚嘆させ、一層の興味を深めていった。

昭和24年

第1回福島県重量挙選手権大会を平地区警察署武徳殿において開催した。また、第2回福島県総合体育大会で重量挙競技が正式種目として決定された。

さらに、第4回国体において、F級の優勝を含む総合第2位の成績を収め、出場2年目にして本県スポーツ界はもとより全国に福島県重量挙の威力を示すことができた。

昭和25年

高校生の選手強化に重点が向けられるようになり、ジュニア大会の必要性に鑑み、内郷市浅野記念館で第1回ジュニア選手権大会を開催し、新人選手の意欲の高揚を図った。

昭和26年

ハワイチームの日本遠征があり、第1回日米親善重量挙大会を福島県平市公会堂にて開催した。日本最初の国際試合として日本重量挙界はもとより、福島重量挙界にとって誠に意義深い大会であった。当時、米国選手歓迎の人波は、平駅前広場を埋め尽し、街にあふれる中、両国選手のパレードが行われた。本大会に福島県からB級に神谷公夫が出場し、高校生ながらも日本新記録を樹立した。

第6回国体において総合第2位の成績を収めた。

昭和27年

協会創立以来5年、第7回国民体育大会を福島県平市公会堂にて開催した。個人ではB・Fe級優勝、F・L級が第2位、LH級が第3位となり総合初優勝を飾った。

昭和28年

第8回国体総合第2位。

昭和29年

第9回国体は北海道での開催となり、出場選手数が制限され、東北ブロックから各級1名の出場枠となる。このため、東北重量挙協会が創立されて予選会が開催されることとなり、第1回東北重量挙選手権大会が7月18日仙台市レジャーセンターで行われ、総合優勝と4名の選手が出場権を獲得した。その4名がよく善戦し、B・Fe級優勝、F・M級第2位となり、再び総合優勝の座に返り咲くことができた。

また、この年には、第2回アジア競技大会(マニラ市)に本県から白鳥博義がFe級に日本代表選手として出場した。

さらに、最近高校生の進出が全国的に目覚しくなってきたことから、重量挙の将来を考え、これら高校生の活躍に期待するところ大であり、全国高校大会の必要性について理事会に提案し、幾多の異論はあったが、この年全日本選手権の開催地徳島県の賛意等を得て全国高校選手権の同時開催が決定された。

昭和30年

新たに福島県高等学校総合体育大会が誕生し、重量挙も全国高校選手権の予選として開催されることとなった。

下関市において開催された第2回全国高校選手権大会では、平工業高校と磐城高校が共に優勝を目指して覇を争い、わずかの差で平工業高校が初の総合優勝を飾った。

また、第10回国体では、総合第3位の成績であった。

この年には、メルボルン・オリンピック大会の予選会が行われ、本県関係では7名が候補選手として日本協会から発表され、候補者の大半を出した福島重量挙の存在が一層注目されることとなった。

昭和31年

第3回全国高校選手権大会を福島県平市公会堂で開催し、地元の磐城高校が総合優勝を飾った。また、同会場において、引き続きメルボルン・オリンピック第3次予選会を開催し、全国の有名選手が一同に集い熱戦を展開した。

第16回メルボルン・オリンピックには本県から２名が派遣され、Ｂ級で古山征男が第８位、白鳥博義がFe級第５位、さらに本県出身の南部良雄もＢ級第６位の好成績を収めた。
第11回国体では、古山・白鳥がオリンピック出場のため参加できなかったが、Ｌ・ＬＨ級の優勝により、総合第３位となった。

昭和32年

６月、中日交歓競技大会に本県から古山Ｂ級、白鳥Fe級、渡辺ＬＨ級の３名の選手が中国に派遣され、各地を転戦し日中親善の大役を果して帰国した。
第４回全国高校選手権大会では、磐城高校が第２位、平工業高校が第３位と本県の優勝を逸した。
第12回国体では、Fe・M・MHの３階級に優勝し、通算３回目の総合優勝の座を獲得した。
また、11月に開催されたテヘランでの世界選手権は、アジア選手権も兼ねて行われ、本県からは４名の選手が日本代表に選ばれた。結果は、Ｂ級青柳清が世界５位、アジア４位、Fe級古山征男が世界４位、アジア１位、M級原善雄が世界４位、アジア３位、MH級渡辺昌幸が世界８位、アジア３位と全員好成績を収めた。

昭和33年

第13回国体では、Fe・MHの２階級優勝などによって連続２回、通算４回目の総合優勝の栄冠を獲得することができた。
また、東京で開催された第３回アジア競技大会では、M級で原善雄が３位、MH級で渡辺昌幸が第４位と健闘した。さらに、第５回全国高校選手権大会において福島県勢が活躍し、総合において磐城高校が優勝、平工業高校が２位、内郷高校が３位と上位を独占した。

昭和34年

第14回国体では、MH級で優勝したものの総合４位に終った。また、第６回全国高校選手権大会にあっては、磐城高校が第２位、平工業高校が４位の成績であった。

昭和35年

３月下旬ローマ・オリンピック選手が本県の常磐炭鑛悠々荘にて強化合宿を行い、本県選手にとって大きな成果を収めることができた。
８月に開催された第７回全国高校選手権大会では、高松宮殿下から優勝旗が御下賜になり、平工業高校が総合優勝して初めての賜旗を手にすることができた。
第17回ローマ・オリンピックには、古山征男がFe級に出場し、５位に入賞した。
第15回国体では、今年度から新たに高校の部が加えられた。高校の部はFe・ＬＨの両級で優勝、一般の部ではＢ・Fe級で優勝し、高校・一般共に優勝、５度目の総合優勝を飾ることができた。

昭和36年

第６回東北・北海道大会兼高校国体予選を福島県平市公会堂で開催し、一般・高校・総合と完全優勝をとげた。
９月、ウィーンで開催された世界選手権では、監督に遠藤、選手に古山が派遣され、Fe級第４位の成績を収めた。
第16回国体では、高校の部Fe級で優勝し２位、一般の部ではＢ・Ｈ級で優勝、総合で２年連続の優勝を成し遂げた。

昭和37年

７月に開催された第９回全国高校選手権大会では、平工業高校（全日制チーム）が２位、同校（定時制チーム）が３位の成績を収めた。
第17回国体では３連覇を目指した前年からの強化策が効を奏し、一般の部で優勝１名、２位１名、３位３名が、さらに、高校の部では優勝１名、２位３名、３位１名とよく健闘し、高校・一般・総合と完全優勝し、連続３回、通算７回目の総合優勝に輝いた。夢にまで見た連続３回優勝、今までどこの県もなし得なかった偉業に喜びに浸った。
この年ハンガリーで開催された世界選手権に若松茂が派遣され、Ｂ級で第７位の成績を収めた。

昭和38年

３月モスクワで開催されたモスクワ国際大会に本県から３名の選手が派遣され、木村将夫がＬ級６位、大内仁がM級５位、渡辺泰行がＬＨ級６位の成績を収めた。
第10回全国高校選手権大会において磐城高校が総合優勝を飾った。
第18回国体では、高校の部Ｆ・Ｂ級で優勝、一般の部ではＬＨ・Ｈ級で優勝するなど全員上位入賞を果たし、連続４回目の総合優勝を獲得した。

昭和39年

第18回オリンピックは東京で開催され、本県からはオリンピック３回連続出場の古山征男がＢ級で６位に、また、大内仁がM級で３位の銅メダルを獲得した。
第19回国体においては、高校の部でＦ・Ｂ級優勝、一般の部ではM級の優勝をはじめ、全員３位までの入賞を果たし、連続５回目の総合優勝に輝いた。
第11回全国高校選手権大会では、平工業高校が総合で第４位の成績に甘んじた。

昭和40年

第12回全国高校選手権において昨年の屈辱を晴らすかのように、平工業高校が通算３回目の総合優勝を獲得した。
第20回国体では高校の部でＬＨ級が、また一般の部でFe・M・MHで優勝し、Ｆ・Ｂ級で第２位を確保するなどよく健闘し、開催県の岐阜と総合優勝を分かち合ったが、これで６連勝を達成、通算10回目の頂点の座を獲得する記念すべき年であった。

昭和41年

第13回全国高校選手権大会においてこれまで県内でも磐城高校と平工業高校に押えられていた内郷高校が総合優勝の座を獲得、小名浜水産高校も５位と健闘し、本県高校選手の層の厚さを感じさせた。
第21回国体においては高校の部で個人優勝はなかったが、Ｌ・M級が第２位、Ｆ・Ｂが３位、また、一般の部ではＬ・M級で優勝、Fe級で第２位を確保するなど善戦したが、秋田県に優勝の座を明け渡すこととなり、７年目にして２位に落ちる結果となった。

昭和42年

第22回国体において、高校の部でM・ＬＨ級でそれぞれ優勝、一般の部でＬＨで優勝Ｌ・Ｈ級でそれぞれ２位を確保するなど、全員入賞の健闘も空しく前年に引き続き秋田県に惜敗、総合２位の座に止まった。
この年まで本籍地からの国体出場が許されていたが、現住所または勤務地とする出場権の変更があり、危機感が協会内に走ったことも事実である。

昭和43年

第15回全国高校選手権大会において磐城高校が久し振りに健闘し、総合第２位の座に返り咲いた。
第23回国体では、高校生がMH級の優勝を含め全員４位までの入賞を果たしたが、一般の総合力に欠け、４位の成績に止まった。この年、第19回メキシコ・オリンピックが開催され、本県出身の木村岳夫がＬ級７位に、また大内仁がM級２位の銀メダルに輝いたのは、協会としても喜ばしい限りであった。

昭和45年

第17回全国高校選手権大会で小名浜水産高校が８位に、また第25回国体においては、高校の部M級優勝、一般の部M級２位など全員入賞の状況にあった

が、各県のレベル高揚の前に総合６位と順位を落としていく結果となった。
高校の部団体第３位。

昭和46年～

昭和46年以降、全国高校選手権大会及び国体の総合成績において、当分の間福島県の名が沈滞し続ける結果となった。しかし、各年各大会において、個人的に優秀な選手が途絶えることなく生まれ育ち、優勝者も勿論あり、国体通算10回優勝の伝統の灯は薄くとも脈々と受継がれていった。

昭和47年

全国高校総合体育大会が山形県を中心として実施され、ウエイトリフティング競技を本県湯本高校において開催した。
また、この年第20回ミュンヘン・オリンピックが開催され、本県出身選手として佐々木哲英がＢ級４位に、また、本県選手からは後藤良一がＬＨ級に出場し、よく健闘した。

昭和59年

ジュニア世界選手権大会に90kg級清野裕司が派遣された。

昭和60年

第７回日韓ユース大会に60kg級太田淳一が派遣され、第１位を獲得した。

昭和62年

第９回日韓ユース大会に52kg級佐久間勝彦が派遣され第２位と健闘。

ＭＨ級後藤良一のP157.5kg

平成２年

第50回福島国体に向けた県内体制づくりの一環として「福島県ウエイトリフティング振興会」を設立し、会長にゼビオ株式会社社長諸橋延蔵が就任。
ゼビオ株式会社にウエイトリフティング部が創設された。
福島県ウエイトリフティング振興会から寄贈を受け、福島県内15校の中学校にジュニア用バーベルを配置し、ジュニア対策(中学生選手)に乗り出した。
この年、佐久間勝彦がジュニア世界選手権大会に派遣され、56kg級に出場し、６位の成績を収めた。

平成３年

９月ドイツにおいて開催された世界選手権大会に、本県から佐久間勝彦が代表に選ばれ、56kg級に出場し第５位の成績を収めた。
県内初の中学生対象の講習会及び採点制競技会を開催した。
勿来工業高校ウエイトリフティング部が平成元年の勿来高校に続いて正式部に昇格となった。

平成４年

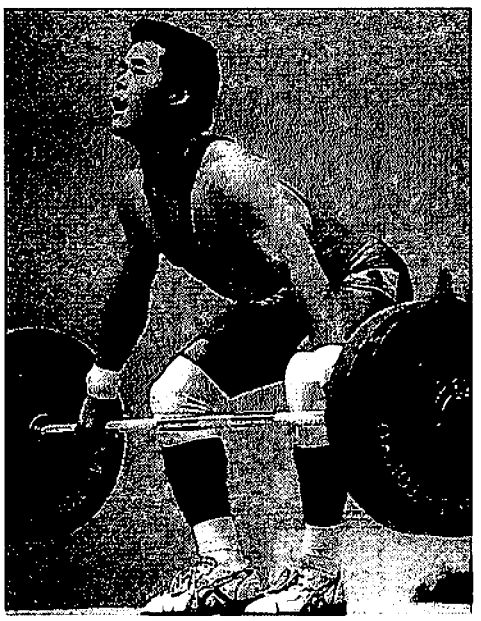
第25回バルセロナ・オリンピックに本県の佐久間勝彦が派遣され、56kg級で第５位の成績を収めた。

平成５年

第48回国体において、成年、少年の活躍により、久し振りに総合第５位の入賞を果たすことができ、２年後の「ふくしま国体」に夢をつなぐことができた。
この年メルボルンにおいて開催された世界選手権大会に本県から２名が派遣され、小野寺浩亀が54kg級に出場し、健闘した。
また佐久間勝彦が59kg級で13位の成績を収めた。

平成６年

全日本社会人、実業団、マスターズ及び女子ウエイトリフティング選手権大会を国体リハーサル大会として開催し、ふくしま国体に向けての体制づくりに万全を期した。
第49回国体において、前年よりも順位を落としたものの、総合で第７位に入賞できたことにより、一層選手強化合宿に熱が入った。
この年広島市において開催されたアジア競技大会に本県の小野寺浩亀が代表に選ばれ、54kg級に出場し、第４位の成績を収めた。


国体三連覇を果たした59kg級佐久間勝彦

平成７年

地元国体開催の本番の年に当たり、日本ウエイトリフティング協会の御高配と、福島県ウエイトリフティング振興会会長諸橋延蔵の絶大なる支援により、全日本ウエイトリフティング選手権大会を国体前の５月にいわき市で開催することができた。誠に光栄なことであり、競技役員全員が感謝の気持と緊張感を持して大会運営に当らせていただいた。本県協会にとって、本当に素晴らしい経験のもと大きな自信につながったことに改めて感謝している。
この年、大韓民国釜山において開催された第27回アジア選手権大会に小野寺浩亀が派遣され、54kg級に出場し健闘した。
また、同選手は中国広州において開催された第67回世界選手権大会にも日本代表に選ばれ、54kg級で15位と健闘した。
第50回国体の準備は昭和63年に会場の内部選定から始まり、競技役員の養成、一方で選手の強化合宿等約７年間にわたる歳月であった。

幸い日本ウエイトリフティング協会の長年にわたる御指導と御支援によって、大会運営には万全な体制で臨むことができた。また、選手強化も効果が現われ、高校生選手がそれぞれにその役割を果たし、成年選手も期待に応え健闘した。総合成績第3位、過去に6年連続通算10回目の優勝を樹立して以来30年の歳月が経過していた。

〈成績〉

成年男子	54kg級	S	第2位
		J	第2位
		T	第2位
	59kg級	S	第1位
		J	第4位
		T	第1位
	70kg級	S	第5位
		J	第4位
		T	第4位
	99kg級	S	第6位
		J	第5位
		T	第5位
少年男子	54kg級	S	第6位
		J	第9位
		T	第7位
	59kg級	S	第10位
		J	第1位
		T	第2位
	83kg級	S	第2位
		J	第1位
		T	第1位

終りに

第50回という節目の記念すべき国体に、監督・コーチ・選手はもとより、協会役員・補助役員など総力を結集し、参画できたことに大きな誇りと充実感で一杯である。

これも、長い歳月にわたる日本ウエイトリフティング協会の温かい御指導と御支援、さらに福島県、いわき市及び開催地地元の皆様の絶大なる御支援と御協力の賜ものであり、心から感謝と御礼を申し上げる次第である。

間もなく本県協会創立50周年を迎えることになるが、これを大きな節目として、これまでの50年の過去を見つめ直し、またこれからの半世紀に向けて努力していくことを協会の総意として確認し合った次第である。

〈現役員〉

会長	飯高 延由	
副会長	小松 鴻一	三井 省三
	菅野 一治	
理事長	阿部 幸男	
副理事長	渡辺 正昭	高野 滋
事務局長	鈴木 庄舜	

茨城県

歴代会長
初　代 三村　　勇（昭和35年～）
第2代 吉田　秀吉（昭和38年～）
第3代 中野　次男（昭和42年～）
第4代 遠藤謙一郎（平成2年～）
第5代 塩手　満夫（平成4年～）

事務局　〒315　茨城県石岡市山王台町3432　石岡第一高等学校内
福田　太公　TEL0299-22-4135

〈沿 革〉

協会創立の経緯

茨城県ウエイトリフティング協会が設立されたのは、昭和49年の茨城国体開催へ向けて協会を設立しようという気運が高まり、茨城県レスリング協会の有志が中心となって設立された。

もともと本県に組織はなかったが、全日本の会長に加藤高蔵先生が就任していたこともあり、本県アマチュアレスリング協会会長沼尻直氏の協力を得るとともに、当初は法政大学ウエイトリフティング部の支援を受けながら、会長に三村勇県議会議員、副会長に吉田秀吉、中野次男、理事長に塩手満夫が就任し、本会が発足した。

競技人口の推移

設立当初は、本県レスリングの余技(体力づくりのためのウエイトトレーニング)でありウエイトリフティング競技を本格的に練習するものは皆無であった。

そのため、法政大学等の学生を中心に東京の大学生をかき集め、辛うじて国体等に参加した。

その後、当時全日本H級チャンピオンの川名英一が、日本生命水戸支社へ転勤してきたことを契機に、県内高校にウエイトリフティング部を創設しようという気運が高まり、県協会が資金を捻出し、高萩工業高校に練習場を設け、昭和40年に10名前後の部員をつのり本格的にトレーニングを始めることとなった。

昭和41年には、県高体連に加盟し1校ながら全国大会にも数名参加することになった。

昭和47年には、磯原高校に部が創設され高校も20名ほどになったが、一般の競技者は10名弱の状況であった。

昭和50年には、土浦日大高校が加盟。

昭和58年には、谷田部高校が加盟。

昭和60年には、茨城東高校が加盟。

平成元年には、石岡第一高校が加盟。

平成5年には高校生徒80名、一般30名となる。

平成6年には残念ながら谷田部高校が活動停止となり、平成7年には、高校生徒約50名、一般30名となり、底辺拡大が今後最大の課題である。

〈年次別概況〉

昭和35年

設立当初から数年間は、法政大学の支援を受けながらかろうじて国体等に参加する状況であり、本県出身の選手は皆無であった。

昭和36年

初の国体参加となり、監督・塩手満夫、選手・横山有一他4名で臨むも、入賞には遠く及ばなかった。

昭和40年

全日本社会人選手権大会を高萩市で開催、同時に高萩工業高校に練習場を設け、椎名穣がウエイトリフティング部顧問となり、本県選手育成の第一歩がスタートした。

昭和41年

県高体連にウエイトリフティング専門部として加盟、初代委員長に椎名穣が就任した。

昭和44年

高体連専門部委員長に中庭純が就任、選手強化も一層充実することとなった。また、この年長崎国体において、小林登がMH級8位となり、本県初の入賞を果たした。

昭和46年

本県初の指導者として、福田太公が高萩工業高校へ採用となり、本格的に選手強化が進められるようになった。

昭和47年

磯原高校に川村孝が創部、加盟が2校となり高校の県大会がやっと試合らしいものになった。

昭和48年

茨城国体を前に岡本実ほか2名が県の教職員として新採となり、全国的にも通用する選手陣容となった。

高校では、本県初開催の関東高校大会において高萩工業高校が2階級を制し、団体初優勝に輝いた。

この年より選手強化の一環として、本県と韓国京畿道連盟との交流試合を開催する運びとなり、第1回大会は韓国ソウルで開催された。本県から中野次男会長を団長に、塩手満夫が総監督となり、選手8名を送り、大いに親善を深めた。当時は、国交が正常化しつつある段階であり不安な部分もあったが、中野次男会長・塩手満夫理事長等の熱意と努力で実現することとなった。

この後10年間京畿道と本県で交互に開催、両国の友好親善と競技力の向上に多大の成果を収めた。

その後、全関東対京畿道へと移行し日韓親善に貢献した。

昭和49年

前年につづき高萩工高が関東高校2連覇、全国高校総体で団体6位となり、全関東選手権でも少年の部優勝、成年の部3位、団体総合優勝と、本会始まって以来の成績を残した。茨城国体では、少年の部L日級3位の鈴木勉(高萩工業)を筆頭に5名全員入賞、成年も6名中4名入賞と奮闘したが、天皇杯得点には、わずかに及ばなかった。

昭和50年代

土浦日大高校に吉田正俊が創部(52年)、谷田部高校に福田が転勤して創部(58年)し加盟4校となったが、この間の活動の中心は、高萩工業高校であり、関東・全国の各種大会では多数の上位入賞者を輩出した。

成年は、国体等で毎年入賞者を出してきたが人口は依然として20名前後であった。

昭和60年

岡本実が、磯原高校から茨城東高校に転勤して創部し加盟5校となった。

また、谷田部高校の野村正芳が全国高校総体において、56kg級で優勝、まだ2年生であり谷田部高校も創部3年目

という快挙であった。

この優勝は本県初のことであり、この後の全国大会等において、本県が躍進する大きな第一歩となった。

昭和61年

前年につづいて野村が全国高校総体2連覇、全国選抜・国体とすべての大会に優勝、本県初の3冠達成選手となった。

昭和62年

沖縄国体において、少年の部67.5kg級・藤枝勇一(茨城東高)が3位、90kg級・五之上裕介(磯原高)が優勝と高得点を獲得し、団体総合6位となり天皇杯初得点となった。

この得点は、福田(谷田部高)・岡本(磯原から茨城東)・熊木(磯原)等指導者のたゆまぬ努力の賜であり、競技人口は少ないが、素晴らしい指導者に恵まれた結果であった。

昭和63年

京都国体において、競技得点45点をマークした。

平成元年

北海道国体において6名入賞し競技得点35点となった。

この年昭和の協会とともに、本会育ての親であり、日本協会副会長、本県協会会長である中野次男が病魔におかされ、平癒をお祈りするもそのかいなくご逝去されたことは、本会にとってあまりにも大きな痛撃であった。

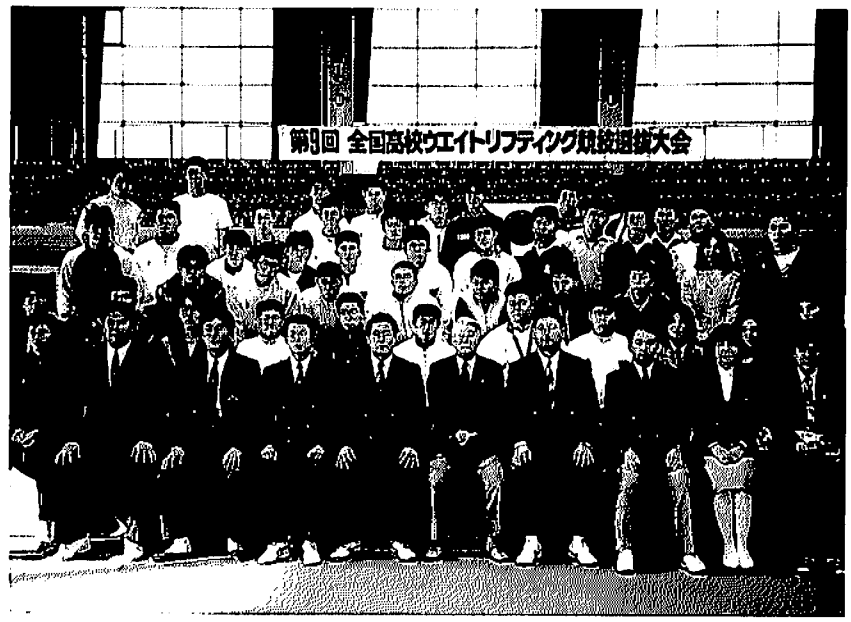
しかしながら、会長の残された功績は不滅であり、その精神はいつまでも本会の基本理念として受け継がれていくこととなるだろう。

平成2年

6月に関東高校大会を高萩市大心苑体育館で開催した。

52kg級で村田明文(磯原高)は全国高校選抜大会につづいて優勝し、大会全体も好記録に恵まれ、大成功であった。

福岡国体では、成年60kg級で野村正芳(日大)がスナッチ・ジャーク・トータルにおいて優勝という素晴らしい記録を出すとともに念願の全員入賞という本県初の快挙を成し遂げ、団体総合8位、競技得点64点を獲得した。



平成5年度全国高校選抜大会　茨城県協会役員・補助員一同

平成3年

前年につづき国体では全員得点を獲得し、順調な年であった。

平成4年

概ね前年並みの状況であったが、高校女子登録が5名となり、大場美幸(石岡一)が全国高校選抜大会50kg級で本県初の3位入賞となった。

平成5年

本県石岡市市民体育館で全国高校選抜大会を開催した。

本県からは5名の選手が選抜され、54kg級伊東健(石岡一高)が3位、59kg級鏑木誠(茨城東高)が4位、99kg級吉田光志(石岡一高)が優勝、と素晴らしい活躍をし、大会運営も大成功に終わった。

平成6年

藤枝勇一が全日本選手権大会70kg級で初優勝と本県初の快挙を成し遂げた。

国体等の大会も藤枝を中心に安定した得点を収めた。

平成7年

関東選手権大会を北茨城市で開催、本県は団体総合3位となり、大会全体も順調に終了することができた。

全国高校選抜大会では、植田裕美子(石岡第一)が女子の部59kg級で初優勝をし、本県女子のレベルアップに貢献した。

この年の登録を見ると、高校は約45名、成年は約30名と少ない。平成14年には、全国高校総体開催が内定しており、開催までに底辺拡大、競技力向上役員養成等の諸問題について確認し、今後の研究課題となった。

<現役員>

会長	塩手　満夫
副会長	鈴木　寛文　金川　順 西川正次郎
理事長	福田　太公
副理事長	岡本　実
理事	藤枝　靖志　柴田　朋彦 塩手　舩夫　中庭　銃 吉田　正俊　熊木　義明 前田　広明　伊藤　淑樹 小宅　誠　小野　悦男 沼田　一郎　長山　祐司 小泉　孝雄

栃木県

歴代会長
初　代 村山太一郎（昭和25年～）
第2代 高橋　　融（昭和30年～）
第3代 小池　知明（昭和36年～）
第4代 永井　成雄（平成6年～）

事務局　〒323　栃木県小山市若木町2-8-51 小山高等学校内
秋山　静男　　TEL 0285-22-0236

〈沿 革〉

協会創設以前

栃木県のウエイトリフティングは、昭和23年、当時体操競技が専門であった五月女兵吾が本競技と出会い、独学で技の研究をしはじめたのが歴史の第一歩である。五月女は、練習の成果をやがて発揮し、昭和24年の第4回国体東京大会でB級に出場し6位に入賞した。その後も選手活動をする傍ら、本県の競技普及に奔走した。

協会創設に至る経緯

25年には本県初の指導者講習会を宇都宮工業高校で開催し、10数人が参加して行われた。浜野進(石橋高教諭)や足利高の生徒・湯本泰正らが参加した。浜野は石橋高をはじめ石橋地区に普及を図り、萩野矢三郎、隅内敏夫らの選手を育て、後の渡辺正二・俊春兄弟らに大きな影響を与えた。一方、足利地区では渡辺繁(足利高教諭)の指導で湯本らが中心となり当時活発な普及活動を行った。そのような活動の中で、渡辺兄弟が見目武雄(小山高教諭)と出会い、小山高校にウエイトリフティング部を創設した。

同年9月1日に、五月女が中心となり村山太一郎や県教育委員会保健体育課の協力を得て、栃木県ウエイトリフティング協会がまず組織化された。会長・村山、理事長・五月女、理事に渡辺繁、浜野進、藤田三郎(県教委)など8名のスタッフが就任した。9月24日には県総合運動公園水泳場プールサイドで、本県初の競技会を開催し、10名の選手が参加した。

〈年次別概況〉

昭和26年～30年

本県初の高校生の大会を、昭和27年8月31日宇都宮高校で開催した。そして29年に第1回の全国高校大会で、F級に木暮茂夫(足利高)が出場し優勝を果たした。翌30年8月28日に第1回関東選手権大会を宇都宮市スポーツセンターで開催した。

昭和57年、小山高校全国高校総体で初優勝

昭和31年～40年

昭和31年5月26・27日に第16回全日本選手権大会を、宇都宮市スポーツセンターにおいて開催した。

昭和32年11月、テヘランで開催された世界選手権大会には木暮茂夫がB級に出場し、4位に入賞した。

昭和33年5月、東京で行われた第3回アジア競技大会には、日本選手団のコーチとして五月女兵吾、B級選手として木暮茂夫が参加した。木暮は325kgの日本新記録を樹立し優勝した。

昭和34年五月女、渡辺、浜野、藤田、見目など指導者が集まり、高校の専門部を設置した。そして初代委員長に見目が就任した。第14回国体において、木暮茂夫がB級に出場し、2年連続1位の栄誉に輝いた。

昭和35年の第16回オリンピック・ローマ大会にも木暮茂夫がB級に出場した。昭和36年7年間尽力いただいた高橋融に代わり小池知明が会長に、理事長には五月女に代わり見目武雄が就任。この年の国体高校の部において、F級の新栃賢治(小山)が3位、M級の荒川賢二(小山)が2位となった。

昭和36年全国高校総体で荒川賢二(小山)がM級に出場したのに続いて37年8月宇都宮市スポーツセンターにおいて第9回全国高校選手権を開催した。F級に出場した吉田三男(小山)が2年生ながらS競技で日本高校新記録を出し優勝し、小山高が団体3位に入賞した。

昭和38年・39年には、高校勢が吉田三男、木村次男(小城南高)、手塚光雄(小山)、一般勢では酒井重男(法大)、伊沢傑(法大)、荒川賢二(早大)などの活躍が見られた。

昭和40年8月全関東大会兼国体地区予選会を県体育館で開催した。一般Fe級の伊沢傑、高校L級の富山好(小山)が優勝、参加7選手が3位入賞という活躍であった。富山好は全国高校総体、国体で2位に入賞、特に国体において、Sで日本高校新記録を樹立した。

昭和41年～50年

昭和41年と42年には、F級堀越武が関東大会で優勝、42年、43年と国体で2位に入賞した。また43年は国体などで新井初雄、高田一夫、保坂一郎、久保邦男などの選手の活躍があった。

昭和43年10月、第1回の関東高校大会を小山城南高校で開催し、小山城南高校が優勝。翌44年も優勝し2連覇を果たした。

昭和45年には、高校勢では小菅富十郎(小山城南)、鈴木俊男(小山城南)、関正男(小山)、新井邦男(葛生)などの活躍が目立った。全国高校総体で小菅が3位入賞した。一般では堀越武、田崎清司、手塚光雄、飯野茂夫などが活躍し、特に堀越武は国体F級において翌46年と2年連続優勝し、世界選手権にも出場し3位に入賞した。

昭和45年11月、第6回アジア競技大会代表選手選考会を小山城南高校で開催した。堀越がF級で優勝し、46年アジア競技大会に出場、Sで102.5kgの世界新記録を樹立して優勝した。

昭和47年、関東高校大会で阿部利和(葛生高)がFe級で優勝し、葛生高が団体優勝を飾った。第27回国体においては堀越がF級で2位に入賞した。

昭和48年9月、第17回全関東選手権兼国体予選を宇都宮市の県体育館で開催した。この年、堀越武、猪狩光正、田崎清司、阿部利和、飯野茂夫、小菅富十郎が国体に出場し活躍した。堀越は全日本選手権で優勝し、世界選手権に出場、Sで104kgの世界新記録を樹立し3位に入賞した。

昭和49年50年と高校勢では秋山静男(小山)、荒川守(小山)、須藤孝(葛生)、杉江均(小園)、などが活躍。関東高校大会で秋山、杉江の二人が優勝、小山高が前年に続き団体2位に入った。国体で杉江がF級192.5kgで2位に入った。一般では堀越、小菅の活躍が目立ち、全日本選手権で堀越1位、小菅3位に入賞、国体ではそれぞれ2位、6位という成績であった。堀越は第9回アジア競技大会にも出場して優勝、大会2連覇を達成した。小菅はパンノニア国際大会に出場した。

昭和51年

第9回関東高校大会を小山高で開催した。葛生高が4位、小山高5位と健闘した。一般勢では堀越、関、杉江、手塚、小菅などの選手が活躍した。中でも全日本選手権において52kg級で堀越が2位、60kg級関が3位、82.5kg級小菅が3位、続く国体は堀越、関が3位に入賞した。堀越はこの年、モントリオール・オリンピックに出場した。

昭和52年

関東高校大会で小山高の平井久雄、小林仁、菊地寿が優勝し、小山高が念願の初優勝を達成した。全国大会、国体でも平井久雄、安達典男、菊地寿らが活躍し、第24回全国高校総体では団体3位に入賞した。一般勢では全日本選手権で52kg級堀越が2位、56kg級杉江が3位、60kg級関が2位、82.5kg級小菅が2位と活躍し、国体では天皇杯総合4位を獲得した。堀越・関の2名が西ドイツの世界選手権に出場した。

昭和53年

本県協会理事長の見目武雄(小山高教)は、高校の専門委員長としても尽力してきたが、小山高教頭となり、専門委員長を越雲幸男(小山高教)が引き継いだ。協会理事長の任は引き続き見目が執った。見目は全国高体連の普及発展にも尽力し、全国事務局長として創設時から44年まで、副部長として45年から54年までの間、要職について貢献した。

関東高校大会では、小林仁、砂岡良治、依田智義の小山高の活躍で前年に続き優勝、2連覇を遂げた。全国高校総体にも小山高から8名が出場し、団体総合2位になった。とくに75kg級に出場した2年生砂岡は、Jで152.5kgの日本高校新記録を挙げ257.5kgで優勝を遂げた。国体においてもJで160.5kgと記録を更新し275kgで優勝、小林の2位と合わせ少年種別3位を獲得した。成年勢では堀越、杉江、関、小菅らが活躍し、全日本選手権、国体と上位に個人入賞を果たし、天皇杯優勝という快挙を成し遂げた。

昭和54年

高校勢は、葛生高、佐野日大高の活躍が見られた。全国高校総体で82.5kg級砂岡良治が285kgの大会新2連覇、60kg級金子訓久(葛生高)が2位、他に針谷宏(小山)、大島一男(佐日大)、大塚裕昭(佐日大)などの活躍があった。国体では少年82.5kg級の砂岡がJで170kgの日本高校新記録を出し290kgで1位、56kg級針谷、60kg級金子が共に3位に入り少年種別2位、成年が堀越武の1位をはじめ関、小菅の全員が入賞し、前年に続き種目総合で天皇杯優勝、国体2連覇を達成した。

昭和55年

栃の葉国体が地元栃木県で開催され、本競技は小山高校を会場に行った。少年種別は60kg級金子が1位、75kg級大島が2位、90kg級大塚が1位となり、少年種別初優勝を遂げた。成年種別も、砂岡らの活躍があり、総合で天皇杯優勝を勝ち取り国体3連覇を達成した。全国高校総体でも金子と大塚が1位となり、大塚はSの特別試技で123.5kgの日本高校新記録を樹立した。また全日本選手権で、砂岡、小菅が初優勝したのも特筆できる。

昭和56年

53年から県高体連専門委員長として尽力した越雲幸男に代わり、伊藤宏平(葛生高教)が引き継ぎ、専門部事務局も小山高から葛生高へ移った。

高校勢は関東高校大会では小山高が67.5kg級熊倉契の1位をはじめ、能地邦男3位、柿木智2位、桜井剛毅3位と活躍し、団体2位となった。滋賀国体は少年56kg級に出場した須田了史(小南高)が2位、67.5kg級熊倉契が3位、成年90kg級砂岡が1位、100kg級小菅が4位、56kg級杉江(萬自動車)も4位と健闘した。全日本選手権では、砂岡が90kg級で優勝した。

昭和57年

高校勢は関東高校大会で小山高校の柿木智、中嶋宏、桜井剛毅の3人が1位となり団体優勝、小山南高が谷田健児1位、戸田亘3位などの活躍で団体3位に入った。全国高校総体では90kg級桜井が1位、75kg級柿木2位、82.5kg級中嶋が3位と活躍し、団体初の優勝を遂げた。小山高にとって29年目にしての悲願の初優勝となった。谷田も67.5kg級で2位に入賞した。島根国体は、少年82.5kg級柿木が1位、90kg級桜井も1位、谷田も4位となり種別1位を獲得。成年は90kg級に出場した砂岡がすべてに日本新記録を樹立し、高校時代から負けなしの5連覇を達成したのをはじめ、56kg級杉江も6位、小菅が3位など全員が健闘し、天皇杯総合で二年ぶり4度目の優勝を飾った。全日本選手権は、砂岡が90kg級1位となった。また砂岡はジュニア世界選手権で82.5kg級に出場し堂々2位に入賞し、11月の第9回アジア競技大会でも82.5kg級に出場し、J、Tにジュニア日本新記録を樹立した。3月には群馬県との第1回親善大会が行われ両県の親善交流と競技力向上に成果をあげた。

また、8月に関東選手権を小山高校を会場に開催した。

昭和58年

関東高校大会は小山高の52kg級石島紀明、75kg級藤沢直樹、90kg級中嶋宏が共に1位となり2年連続4度目の団体

優勝を遂げた。全国高校総体では90kg級中嶋が1位、82.5kg級野竹弘(小南高)と100kg級戸田亘(小南高)が共に2位に入賞した。国体は少年90kg級中嶋が1位、75kg級藤沢が2位、82.5kg級野竹が3位、少年種別2位を獲得、成年は67.5kg級菊地が3位、90kg級小菅が7位、100kg級大塚裕昭(日大)が5位、52kg級杉江が宿願の1位の栄冠に輝いた。砂岡は全日本選手権で4連覇を達成すると共に、世界選手権においても4位と活躍した。この年2月に、第1回小山市中学生大会を開催し、大谷中・小山三中の2校20数名が参加した。

昭和59年

砂岡良治(今市スポーツセンター)は、ロサンゼルス・オリンピックに出場、3位銅メダルを獲得した。奈良国体においてS特別試技で160.5kgの日本新記録を樹立して優勝、全日本選手権では、大会5連覇を達成した。少年では、小藤安正、荒川裕司、鶴見英司らの小山高が活躍し、関東高校大会が団体2位に、全国高校総体が団体4位となった。国体は少年56kg級小藤、67.5kg級鶴見がともに3位となり少年種別6位、成年は砂岡の他、110kg級桜井剛毅(日体大)がJ167.5kgのジュニア日本新記録を樹立して3位に入賞し、金子、大塚が共に5位に入賞した。

昭和60年

関東高校大会において、小山高の鶴見、手塚が1位となり団体2位、小山南高も3位に入賞した。全国高校総体においては、67.5kg級鶴見英司(小山)が1位となった。鳥取国体は、少年75kg級田崎康宏(小山)が4位、82.5kg級手塚賢一(小山)が5位となり、少年種別4位。成年は82.5kg級砂岡が1位となったのをはじめ、大塚、桜井、川島などの活躍が見られた。砂岡は、6月の日中友好大会90kg級Sで161.5kg、T360kgの日本新記録を樹立し、全日本選手権でも1位となり6年連続して栄冠を手に入れた。

昭和61年

第19回関東高校大会を6月7・8日の2日間、小山高校を会場に開催した。小山高は小曽根万佳と、野沢雄一が2位に入り団体2位入賞。この年に第1回の関東高校と全国高校の選抜大会が開催された。全国高校総体で、75kg級和田吉陽(葛生)が2位に入賞した。山梨国体は、少年60kg級野沢が7位、67.5kg級鈴木宗徹(小南)が3位、成年鶴見英司(日体大)、中嶋宏(日体大)、川島一夫(佐城東中教)らが入賞した。

昭和62年

関東高校選抜大会で52kg級田中久也(小山南)、56kg級小曽根万佳(小山)、90kg級鈴木潤(小山)、+100kg級菊地智弘(小山南)が1位、全国選抜大会で56kg級小曽根が200kgで1位、52kg級田中が2位となった。関東高校大会は小曽根、鈴木、菊地と100kg級篠原正人(小園)が1位となり、団体では小山高が3位に入った。全国高校総体は小曽根が1位、田中が3位に入賞した。沖縄国体は、少年に田中、小曽根、鈴木、成年には鶴見、中嶋、川島、桜井が出場した。

昭和63年

2月、県中学生大会に67.5kg級堀越典昭(小山中)が出場し185kgを挙げた。全国高校総体では67.5kg級河内正樹(小山)、75kg級館野和彦(小山)、上條清志(佐日大)が共に3位入賞し、67.5kg級会沢豊(葛生)が4位の成績を残している。京都国体では、67.5kg級河内が1位、75kg級会沢、90kg級上條が3位入賞を果たした。成年は鶴見、和田貴行(佐南中教)、川島(藤一中教)、桜井(小山中教)が出場し総合8位に入賞した。鶴見は全日本選手権に出場し4位に入賞した。

平成元年

小山高が関東・全国を制した年であった。関東高校大会は、鈴木隆・堀越典昭・青木勝信・柳田真哉の4名が1位となり、通算5度目の優勝を飾った。続く徳島県上板町で行われた全国高校総体では、67.5kg級堀越が優勝、82.5kg級野沢征弘も優勝し、100kg級青木・+100kg級柳田が共に2位、北條正樹5位、北條健一・永藤友久が6位入賞と活躍し、57年に続く2度目の団体優勝を飾った。国体には、少年67.5kg級堀越が2年生ながら日本高校新記録を出し2位、野沢が3位、成年は鶴見、川島、桜井らが入賞している。砂岡良治がソウル・オリンピックに出場、6位入賞を果たした。

この年は、女子部員の活動が始まった年であり、初の女子の大会が行われた。2月の中学生大会は、青木延明(大谷中3年)が205kg、大谷広幸(桑中2年)が165kg、菅野太作(桑中2年)が150kgの成績を残した。

平成2年

永い間、県協会理事長として貢献された見目武雄が勇退、代わって檜山四郎が理事長の任を引き継いだ。見目は栃木県のウエイト界に大きく貢献されたのみならず日本のウエイトリフティング界にも多大な功績を残され、普及発展に尽力された。五月女兵吾・渡辺繁と共に栃木県の協会発展と競技力向上に大きな功績を残された。

堀越典昭(小山)の活躍の年であった。第5回関東高校選抜大会を1月20・21日小山高校を会場に開催した。堀越典昭は67.5kg級Sで120.5kgの日本高校新記録を挙げ優勝。3月の全国高校選抜大会では全種目に日本高校新記録を樹立して優勝した。5月にはサラエボで行なわれた世界ジュニア選手権の67.5kg級に出場し、更に日本高校新記録を塗替え、9位の成績を残した。全国高校総体ではS125kg・J165kg・T290kgと更に記録を伸ばし優勝した。11月にはブタペストで行われた世界選手権で12位の成績を残した。

他に活躍した選手は、高校勢は全国高校総体で90kg級宇佐美聡(葛生)が3位、成年は、会沢豊(日体大)・和田吉陽(日体大)が入賞している。

8月24～26日、第34回関東選手権大会を小山高校を会場に開催した。

平成3年

高校勢は、関東高校選抜大会で56kg級浅倉紀昭(小山)・110kg級村田利幸(小山)が1位、90kg級青木誠(葛生)が2位。第1回の女子の部には、野村記子・堀越幸子(葛生)、小松原瑞穂・館野祐子(小山)が出場し、共に2位であった。全国高校選抜大会では、青木延明(小山)が247.5kgで2位に入賞した。関東高校大会は青木・村田が1位となり団体2位、青木は全国高校総体において100kg級で272.5kgを挙げて1位。石川国体は、少年に小山高の浅倉・小島・青木が出場し、100kg級青木が3位、成年は野沢雄一(小高教)・会沢豊(法大)・青木勝信(日大)らが出場し入賞した。日本選手権では堀越が3位に入賞した。

平成4年

関東高校選抜大会では、男子の110kg級青木延明(小山)が1位、女子は56kg級館野祐子(小山)が県外大会で初の本県女子優勝者となった。全国高校選抜大会は青木が1位、75kg級菅野太作(小山)が3位、女子の館野も2位の成績であった。関東高校大会は、青木が+100kg級で130.5kg・170kg・T300.5kgの日本高校新記録を出し2連勝した。小山高は団体4位、葛生高も5位と健闘した。全国高校総体は、+110級出場の青木が132.5kg・175kg・T307.5kgを挙げ、関東大会の記録を更新し、過去の砂岡・堀越に続く2階級制覇を達成、小山高は

団体4位に入った。山形国体には、少年大谷広幸(小園)・菅野・田辺豪(葛生)が出場し、菅野が75kg級で2位をはじめ全員入賞した。成年は堀越・野沢・会沢らが出場し全員入賞、天皇杯総合で4位と健闘した。青木は日韓ユース大会で+100kg級を制した。堀越典昭は、バルセロナ・オリンピック67.5kg級に出場し、9位の成績を残した。8月に第6回全国中学選手権を小山市大谷中学校で開催した。青木秀範・中津原潤一郎(大谷中)らが活躍した。

平成5年

第40回全国高校総合体育大会を栃木県で開催、ウエイトリフティング競技は小山高校を会場に行った。葛貫宏平(葛生高監督)が小山市の大会実行委員会事務局に入り、葛生高校の公務の傍ら、栃木県、体協、小山市、日本協会、栃木県協会など多くの関係者との連絡をとりつつ、緻密な企画運営を図り、大会の開催となった。

平成5年は、階級変更となった年でもある。関東選抜大会は64kg級土井真二(小園)、83kg級菅野太作(小山)、+108kg級鶴見博邦(小山)が1位、全国高校選抜大会は64kg級大谷広幸(小園)・83kg級菅野が1位、91kg級関口裕志(小山)ががが2位、76kg級千野正博(葛生)・91kg級遠山哲也(小山)が3位に入賞した。女子も64kg級関口幸恵(葛生)が2位となった。関東高校大会は83kg級菅野が1位、小山高が団体2位となった。全国高校総体は64kg級大谷、83kg級菅野が1位に輝いた。他に遠山の3位など小山高勢が活躍したが、1点差で惜しくも準優勝となった。

大谷・菅野が出場したソウルの日韓ユース大会に秋山静男(小園高監督)がコーチとして参加した。堀越典昭(日体大)は5月上海で行われた第1回東アジア大会に出場し、J170kg・T300kgの日本公認最高記録を樹立し、5位の成績であった。また、青木延明(日大)はチェコ・ヘブ市の世界ジュニア選手権の+108kg級に出場し12位の成績であった。

第7回全国中学選手権では59kg級赤荻裕孝(桑中)が167.5kgで1位、3名が2位に入る健闘を見せた。徳島国体は、少年70kg級大谷が2位、83kg級千野が3位、91kg級菅野太作はすべてに日本高校新記録を樹立し1位となり、少年種別3位、成年は堀越・永藤友久(日体大)、青木勝信・青木延明(日大)兄弟が全員入賞し、天皇杯総合3位獲得を果たした。瀬戸市での全日本実業団選手権には、昭和アルミ、(株)ヨロズの企業が参加し、昭和アルミが第2位となった。マスターズにも堀越武(昭和アルミ)1位・飯野茂夫(株ヨロズ)2位となった。

平成6年

昭和36年から県協会会長として尽力いただいた小池知明が、また63年から理事長として尽力された檜山四郎が揃って勇退され、新会長に永井成雄(葛生高校長)、理事長に葛貫宏平(葛生高教)がその任を引き継いだ。小池には、長きにわたり会長職として尽力された。檜山には、協会の刷新と改革に着手され、現在の体系的で明確な協会運営に尽力いただいた。葛貫の理事長就任に伴い、高校専門部事務局を小山南高校が引き継いだ。

関東高校選抜大会は、青木秀範(小山)土井真二(小園)などが活躍。全国高校選抜大会は、70kg級土井が1位、青木・遠山哲也(小山)が2位に入賞した。

女子は葛貫美貴(葛生)が54kg級に出場し2位と健闘した。第27回関東高校大会は、地元栃木県小山市の県南体育館を会場に開催した。大会は83kg級青木と99kg級遠山が1位となり小山高が団体3位となった。全国高校総体でも、83kg級青木・99kg級遠山が1位となり、学校対抗において平成元年に続き三度目の優勝を達成した。愛知国体は、少年土井・青木・遠山が出場、99kg級遠山が1位となった。成年は堀越・大谷広幸(日体大)・野沢雄一(小高教)・青木延明(日大)らが出場した。4月の全日本ジュニア選手権に土井・菅野(株ヨロズ)・青木秀範(小山)・青木延明(日大)が出場し、青木延明が3位に入賞した。ジャカルタで行われたジュニア世界選手権に青木が出場し7位の成績であった。全国中学選手権大会では、54kg級石川研二(桑中)が1位、59kg級吉田健太郎(桑中)も3位に入る健闘を見せた。

日韓ユース大会に出場した99kg級遠山はJ162.5kg、T282.5kgと日本高校新記録を出し、関東選手権においてもJにおいて163kgと記録を更新した。

11月の全日本実業団選手権では昭和アルミが前年同様1点差で2位となった。マスターズには76kg級飯野茂夫が3位、99kg級小菅富十郎が見事1位となった。

平成7年度

関東高校選抜大会は91kg級青木秀範・99kg級中津原潤一郎(小山)が共に1位、76kg級横田稔(葛生)が2位であった。全国高校選抜大会においては91kg級青木が1位、99kg級中津原も1位となった。関東高校大会は、91kg級青木が1位、83kg級赤荻裕孝(葛生)が2位に入った。全国高校総体は91kg級青木が1位と活躍し、小山高が団体5位となった。

福島国体は、少年83kg級赤荻が5位、91kg級青木がJ168kgの日本高校新記録を挙げ1位、99kg級中津原も5位に入賞。成年は83kg級野沢雄一(小高教)が4位、91kg級会沢豊(結城ーホテル)が7位、+108kg級青木延明が4位と活躍し、天皇杯総合7位の成績をあげた。

11月の全日本実業団選手権では昭和アルミが3年連続して2位となった。マスターズにおいては堀越武(昭和アルミ)が54kg級で、70kg級関正男(昭和アルミ)が1位となり、76kg級飯野茂夫は3位に入賞した。ひろしま国体記念女子競技には50kg級に館野祐子(昭和アルミ)が出場し、2位に入る活躍を見せた。

伝統ある栃木県ウエイトリフティング界の歴史の中に、多くの指導者と、全国・世界に活躍した選手を数多く輩出してきた。本県協会の渡辺繁、五月女兵吾、見目武雄、檜山四郎等の先輩指導者をはじめ県内外の多くの関係各位のご指導ご尽力の賜であり、その成果が実り現在の発展につながったものと本協会一同深く感謝の意を表するものである。

〈現役員〉

会長	永井 成雄
副会長	檜山 四郎　渡辺 直治
	麻生 英治　武井 元尹
理事長	葛貫 宏平
副理事長	飯野 茂夫
理事	岸 収　堀越 武
	橋本 利男　小菅富十郎
	関 正男　内田 英宣
	秋山 静男　荒川 守
	柏木 修　古川 徳昭
	田崎 清司　菊地 舜
	谷田 健児　川島 一夫
	野沢 雄一　金原 好男
	宇賀神敏光　砂岡 良治
	篠原 三男　森田 洋一